

49-1888

ル 4  
號 5326  
卷 2



柏木社 深谷溪  
名張川 火山  
天乃石置社 桐原  
藤原社 爾爾社  
人磨礪寺 虛空藏寺

真平賀原  
寒布社 桃香井ハ幡  
穴次社 宅布世社  
清澄池 带解也藏

中川寺 氷室舊趾  
甲斐飛泉  
八丈巖 永井池  
崇道皇陵 菩提山

忍辱山 柳生營  
桃香渡口 光仁帝陵  
和珥池 八嶋寺  
柳軒腰寺 鳴鳳寺  
柳軒寺

了3  
番号 51(n)  
通書







## 興福寺

（南都）あり一名のみ（大織冠錄）すと官城國宇治郡小篠郷に附

帝王編年集成出舊跡

都名所圖會小字次より

其時

齊明天年

一說

天智天皇即位年大寶室

鏡女王大織冠の御跡を建へり

御頃

歎后天武天皇即位年大寶

高布邪麻坂小字御坂

御坂

天武天皇和洞年春日の祭

御跡をられ淡海を御造営ありて舊の名を改め興福寺と號すとひに春日乃

神掌すとて東向すもて五重唯識の法水（法水）佑保門のがれとひに四所

明神の擁護と互乎の風を代りび圓臺子の古佛不二門に入るの金鬼うり

南大門

金剛力士の二王の像がまことらねど土人曰軍

澤写候

（西院の御門）

門

（西院の御門）

敷石小澤写が影付

定紋

（西院の御門）

（西院の御門）

（西院の御門）

（西院の御門）

花六十種の者若木なる擁護の御林（御林）

（御林）

## 中金堂

本尊は太子の釋迦の像（肩間の玉）

（御林）

（御林）

## 東金堂

本尊は太子の釋迦の像（肩間の玉）

（御林）

（御林）

## 西金堂

天平六年正月光明皇后御母安坐して御建立

（御林）

（御林）

## 南圓堂

本尊は不空羅索觀音像。平安時代に源氏の御小廟の處と西國巡礼所が九番目に年藤原冬嗣公後氏のからてゆく。法師と大男の北家房の御子・鎌倉高虎より額をあおり建立し、後藤比叡の別名をもつて南圓堂と號す。

補陀洛の南の房小堂こそ御の多うみ今をさへん

袖中おほき春日明神の御使とて、草河明神詠、とて、

補陀洛の南の観音の淨土、八角のとて放小け堂も八角小造ども破風の巻並常盤あり、

藤比叡の御子・小家家式家家、家に人の公達すくより仰としと

北圓堂

本尊は弥勒佛が安否は生老病死の八月元正元明の兩帝御坐を

大講堂

本尊は阿彌陀三尊は平安時代又は後醍醐天皇の像公造らねり。是堂も有

後藤遺集

山階寺の御榮請小作くよみ侍る

鳥殿吉首

緑度寺金口院

神毎月例祭の御供法をそぞろの都小供をその祭

御納言於浦

五重塔

五脛如來分安坐は太平二年四月光明皇后の御建立く、寛文記小曰塔

社より塔あるれは神龜分也れと

十五丈を下さりとく

窟辨財天祠

弘仁年中弘法大師大内の名を天小糸差して南圓堂造立分

大金

は記云玉井院の邊小わりの門ハア斗一ツハ

八重櫻

は石集云ハキ橋は東圓堂のすくわたり或曰延宝の次すくけ跡小ハキ櫻あり

一條院の御時すくめのことをハキ橋と人の多くて多く分付する

移古今

沙石集曰

上東門院とく后方へは一ツの花をみてかずかれてとく太衆で見る

かずたゞいのひともあひ櫻はやりくとくを看ぬてむかうとくしてあがむ

うきつをもわるとゆ女院がとくかひく奈良法師とくらむ

りのとくをやひ一ノ屋と小名ぬくとく櫻あらだりけを殊小供が

余御の店分をもひくそれより花のこりそ日々あひて宿直すとす

## 詞花集

いみのあられをまかへ夜橋夕か夜よ小ほひむかく伴勢太輔

建久の年東大寺付書小り御の時興福寺のハキとくはりとく

けりとくとく枝にもひゆ

いみのあられをまかへ夜橋夕か夜よ小ほひむかく伴勢太輔

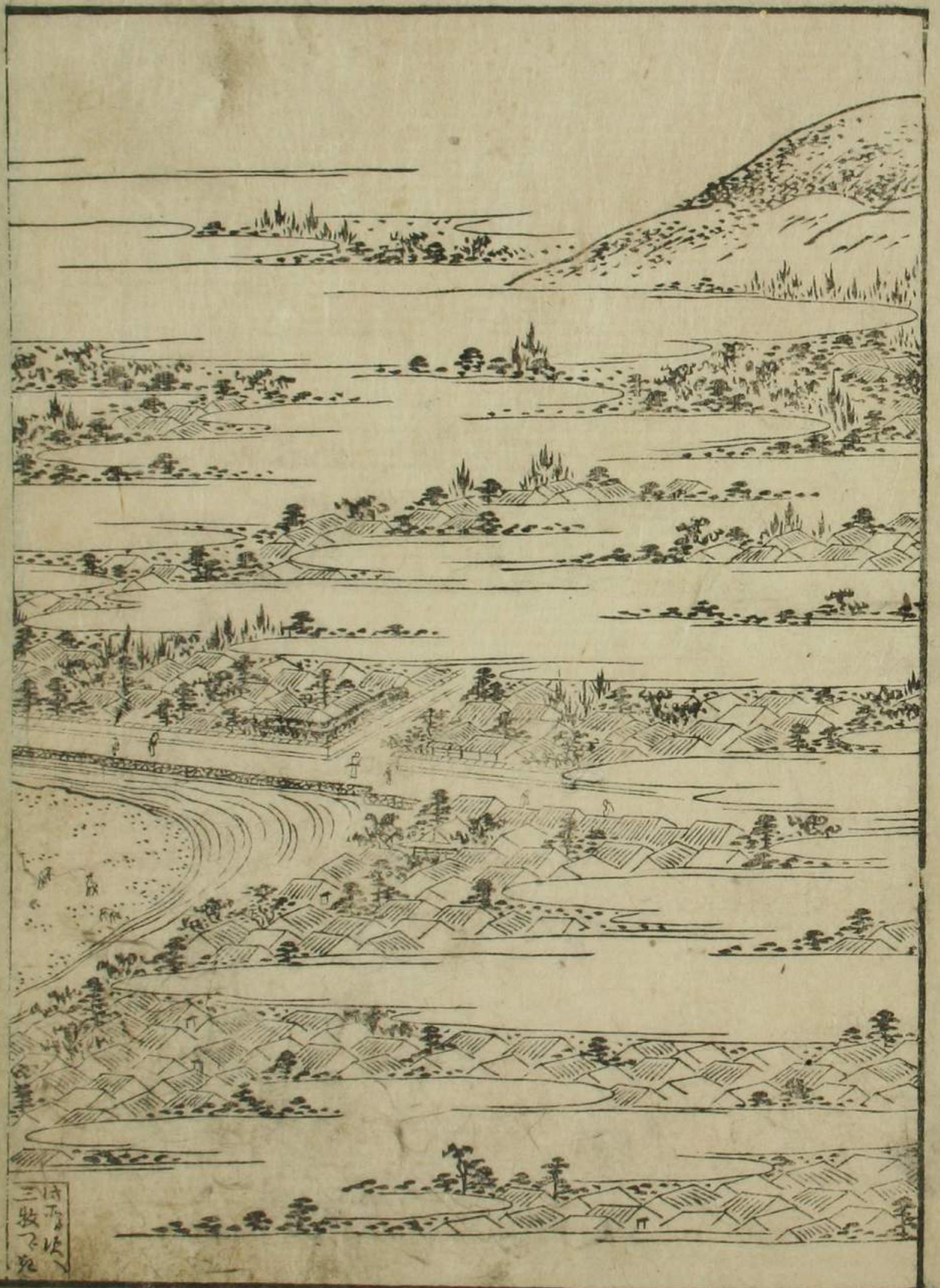
建久の年東大寺付書小り御の時興福寺のハキとくはりとく

けりとくとく枝にもひゆ

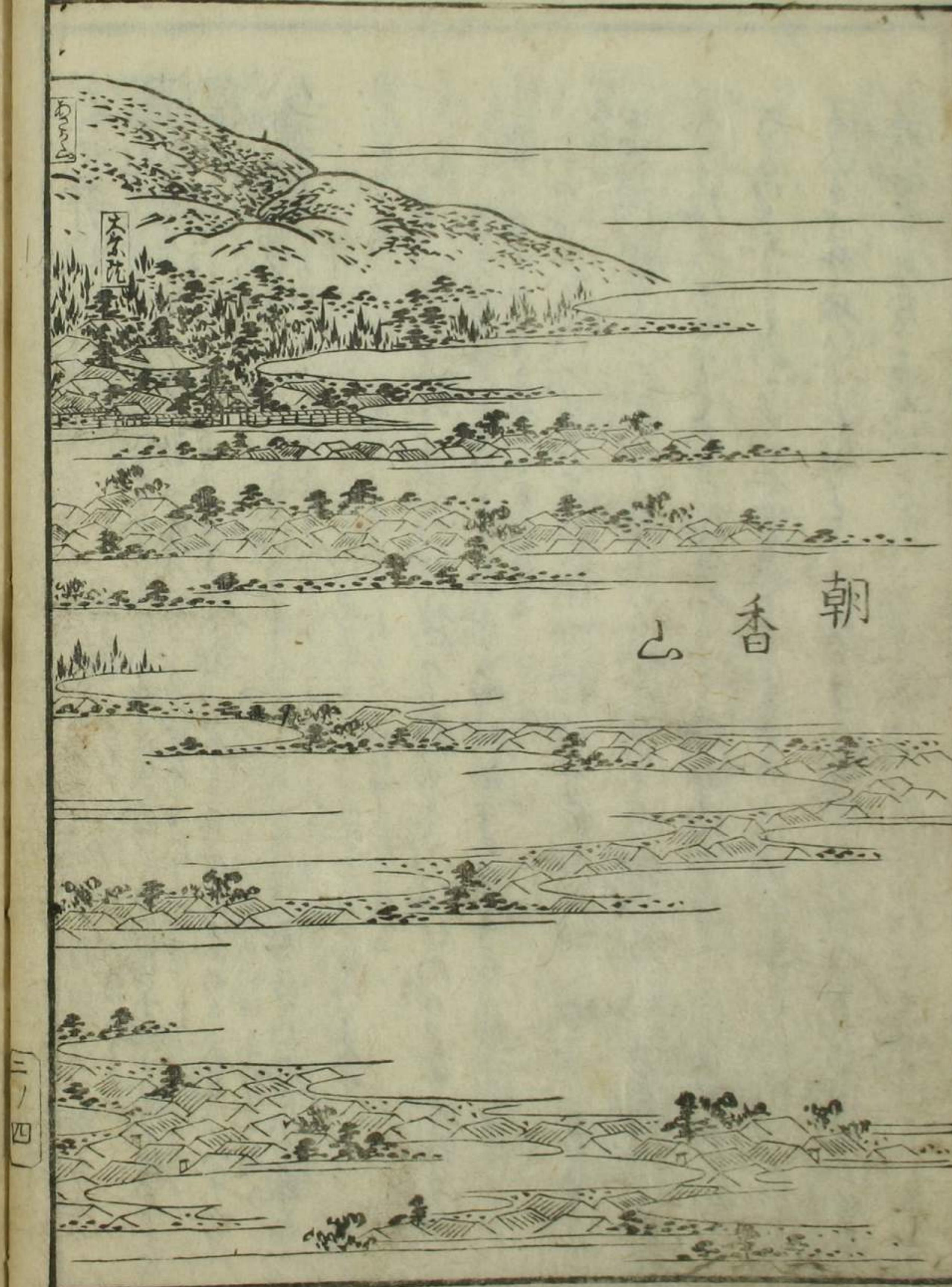
いみのあられをまかへ夜橋夕か夜よ小ほひむかく伴勢太輔

建久の年東大寺付書小り御の時興福寺のハキとくはりとく

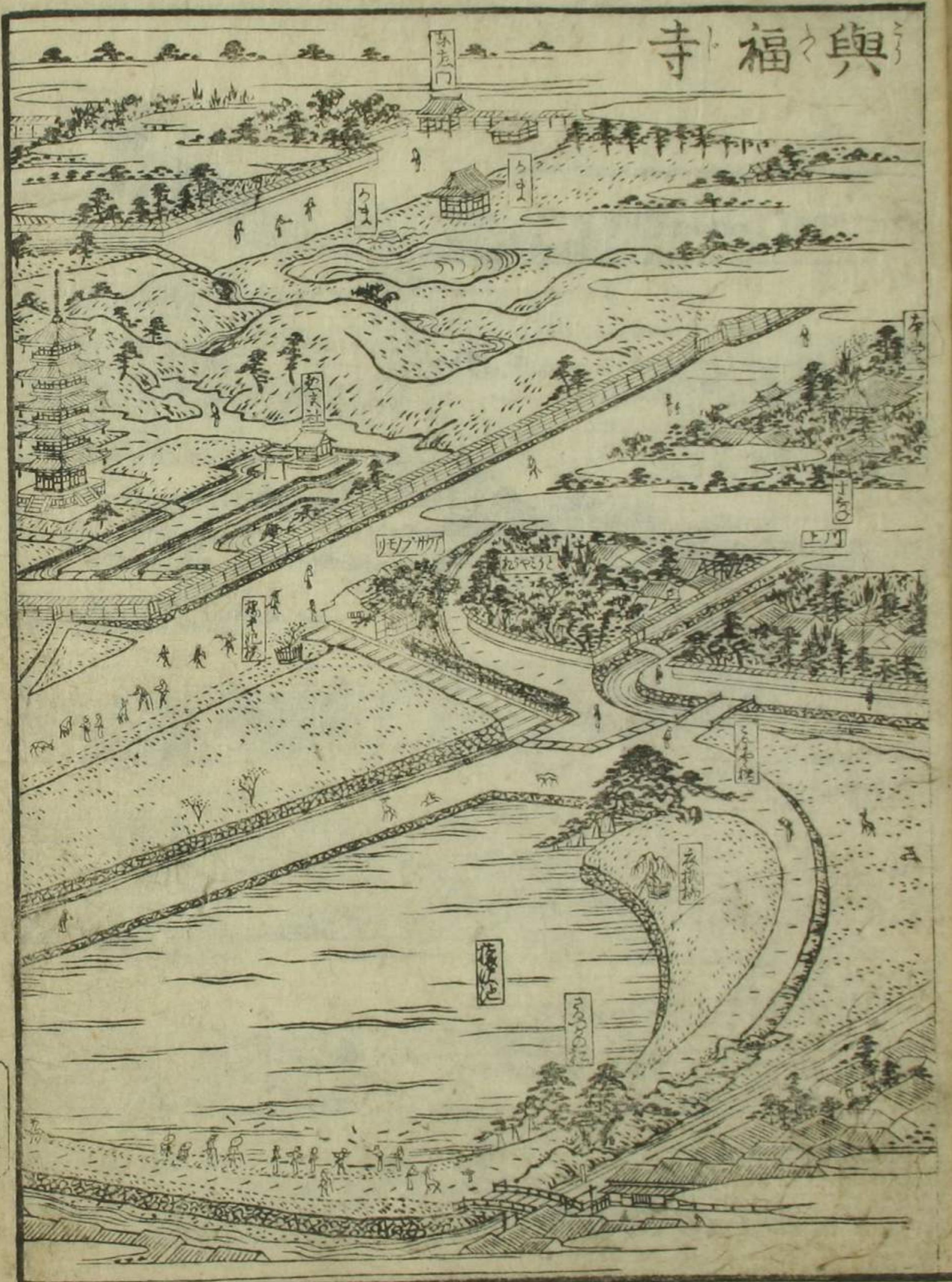
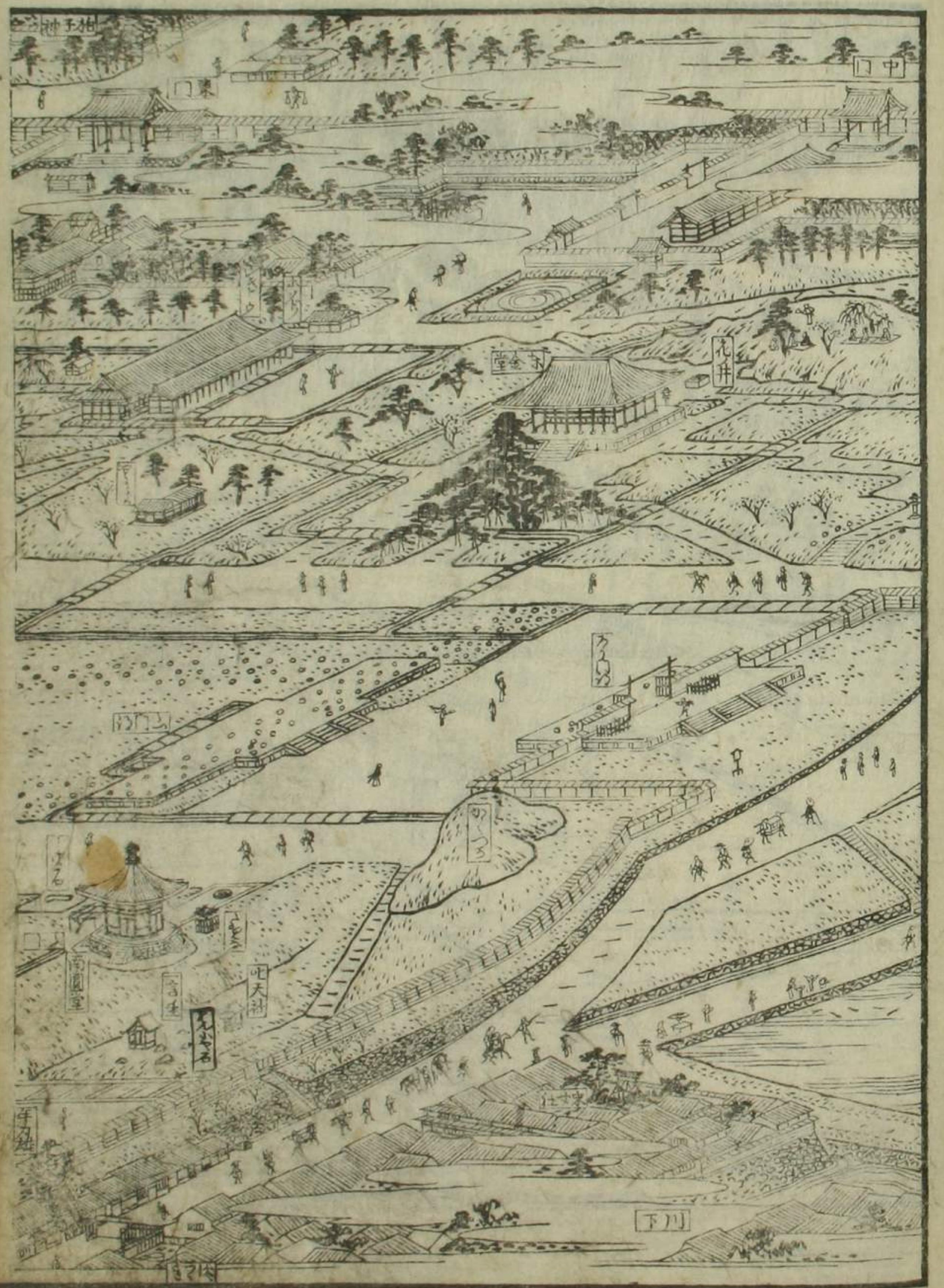
けりとくとく枝にもひゆ

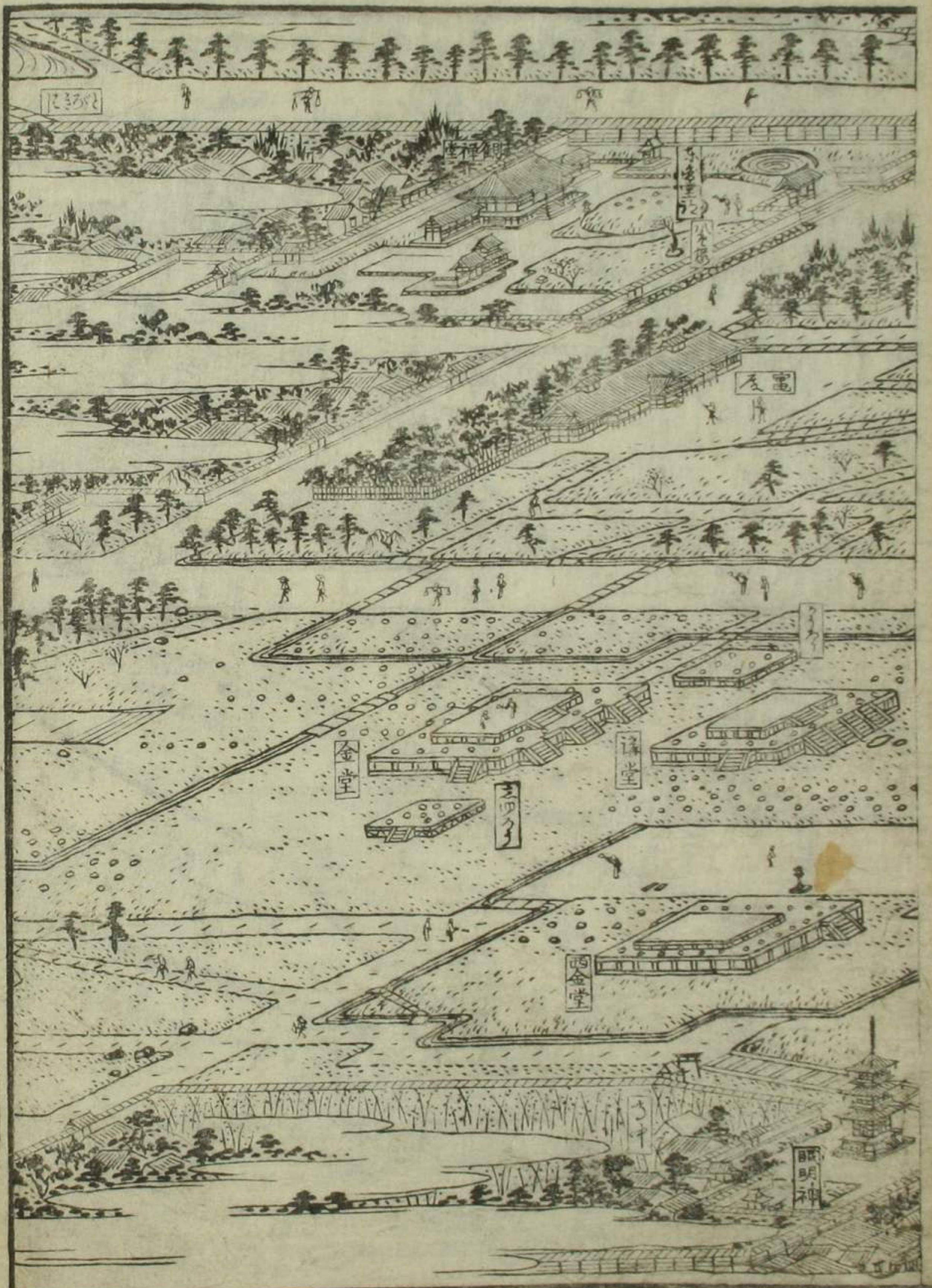
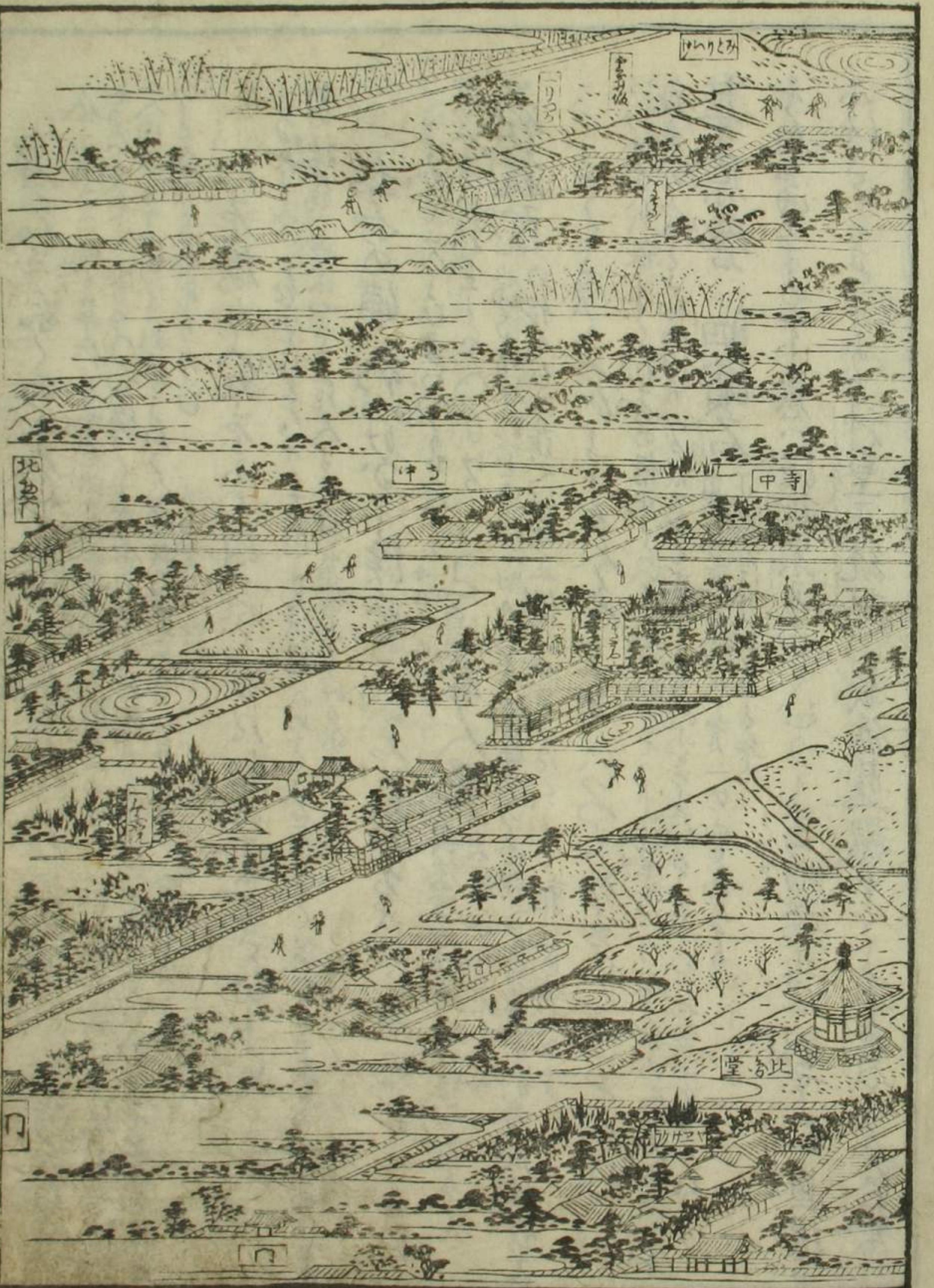


三  
四



二  
四





ちをひきぬありなしを余れの處かあらそとを頃の處と名づくる云  
今小生の領を行ひ又喜日お宮の神主祐彦といふ人ありへを構かつたるゝと  
てひそり今より公卿と名づくる也秀もとくにゆりてくもとぞるほ  
太内小使一ノ一あはれく其様をそぞれなほくまりかく  
ゆくからやありなし

八重橋（アシキヨ）十九重（トトロシ）小石の下（シモシタ）古都のまをそひへ  
とくわんみくを小そひもひく太内もはれ候ひりくこせひくあはうくふそくへきる  
かの祐彦へ優ふやうへんぐく今多く撰集のありけふ

和泉の浦（ワカシマ）小行つけかくは涼（リョウ）すをくふをれねをかのまをひ  
とよみとくをひく今もそれう山邊赤人塔（ヤマヘンセイジンタツ）真福寺の坊中彰坊（ヤマハラシボウ）もありと  
宿（スル）あるの神主（ミムラサキ）くの人にひく

花林院（ハーリンイエン）當守坊中ね室のあ小向（コシマカニ）あり中筋（コシスル）とく勤（シテ）花林院の別當水圓（エツドウスイエン）修正

花林院の住むい新へ修正優にやうに今く郭公の鳴らんゆく

さくび小石（コロシマカニ）クれをやくらひつて初者の心地（ハートチ）をもれ  
とくわんあが旅（リョウ）く初者の修正（ヒュウジン）とくとく治義（ヨウイ）の平家の兵火小佛像

經卷（キヨムカウ）ともものゆりけんふんく疾（クモリ）とく疾（クモリ）とく病（クモリ）とく平家を告ふのせられり  
華原磬（カハラケイ）泗瀆石（ソクダケイ）貞享元年（セイショウゲンニン）當する才一の寶あらうり

正法院（セイガイン）ありとを

そん當寺の宗意（スムニイ）ハ法相宗（ハツサクジン）めぐくむく一毛肪修正歸朝（カイジョウ）を真福寺  
小法師（コロハシ）くらひとくよ神皇正統記（カムイセイドウキ）小載伽藍魏（カランホイ）くとて七寶（セブ）をちりもる本舟

そん當寺の宗意（スムニイ）ハ法相宗（ハツサクジン）めぐくむく一毛肪修正歸朝（カイジョウ）を真福寺

小法師（コロハシ）くらひとくよ神皇正統記（カムイセイドウキ）小載伽藍魏（カランホイ）くとて七寶（セブ）をちりもる本舟

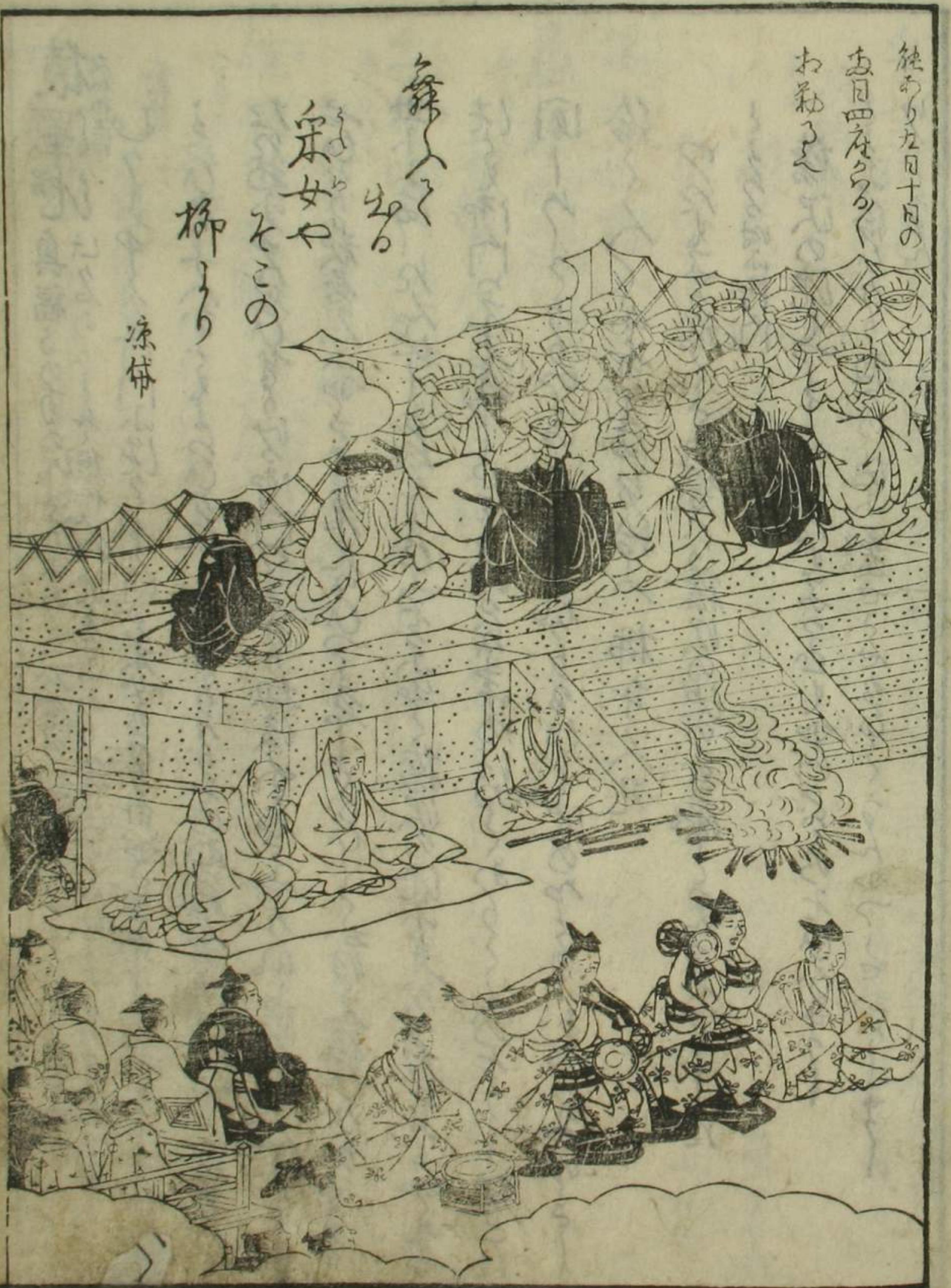
周國既小未未漢京芳艸すとくはやくの牛子うりぐ  
ふの爲とく靈佛靈尊の心に國襄記（カツカウキ）小著しゆどくも遠く陽成帝  
元慶二年に堂舍傍坊一時に田猿小乃ての額聚國史小著しゆどくそんうち  
再建あり厥后少災雷少丘少少難く焼ての本朝御辭載帝王編年  
百練抄（ハツレンシヤウ）小記（コトメモト）近て掌怪草年の火炎土礎のみく伽藍再建か  
志立ても南都の大廈みく名もれ靈跡うれ百合うかくにあくやく  
周國既小未未漢京芳艸すとくはやくの牛子うりぐ

一乘院（イチヨウイエン）御書曰當院と大乘院とかつるの寺勢微（ヒツイ）少くいすば大平寶字  
大乘院（イチヨウイエン）舊の出考曰傳人向大乘院ハ當院の御宇寛治元年二月小造立  
菩提院（ボダイイエン）眞福寺（サンボウジ）あ太門の東小鐘樓あり大御堂とひくを尊い无量壽佛右の方  
修業他事かくえれども名利小きこれ出離の道をうらうりとがくくみく初唐寺小  
宿（スル）我道心開發が行てけるをゆきとあるの京代店を麻那園の院院にゆくと見に審  
よりかひいかな十そくの童若く我小老く上人づねは教くと欲く  
ゆくおとせりくをす小つとくまく其後上人ふづくとてをくらりありく長和  
二年二月十日京をすやく我承さんほ信小藏と麻那園の院院の上人どん七日分浦（ハシマ）  
ひくひくとくとく急後（シキゴトク）上人をめく七日小うりんと櫻谷ひくと金を生身  
の十一而從世のいふとくにす小安年（カミナニ）て更觀者とやく上人初於卒の折者より  
じづほ観者公念補院本とすとく門子に若ひくとくやく一麻那院起

## 新社能

紀事二日

南太門ふ於く薪火能の  
そりやうの真経ち二月の  
法會法會されを寺僧  
春を小堀次く門あ  
於く薪火燒其光小能て  
俳優さへ長板の戯れ  
其後四座の猿ふんと  
あひ二月七日より



狼澤池　眞福寺の寺の名より小あり。天空の森候池とぞい。けり。より  
け名あり。を。狼窓ね池を。小あり。狼はの名に。より。遠。うきぐれ。

信  
大和

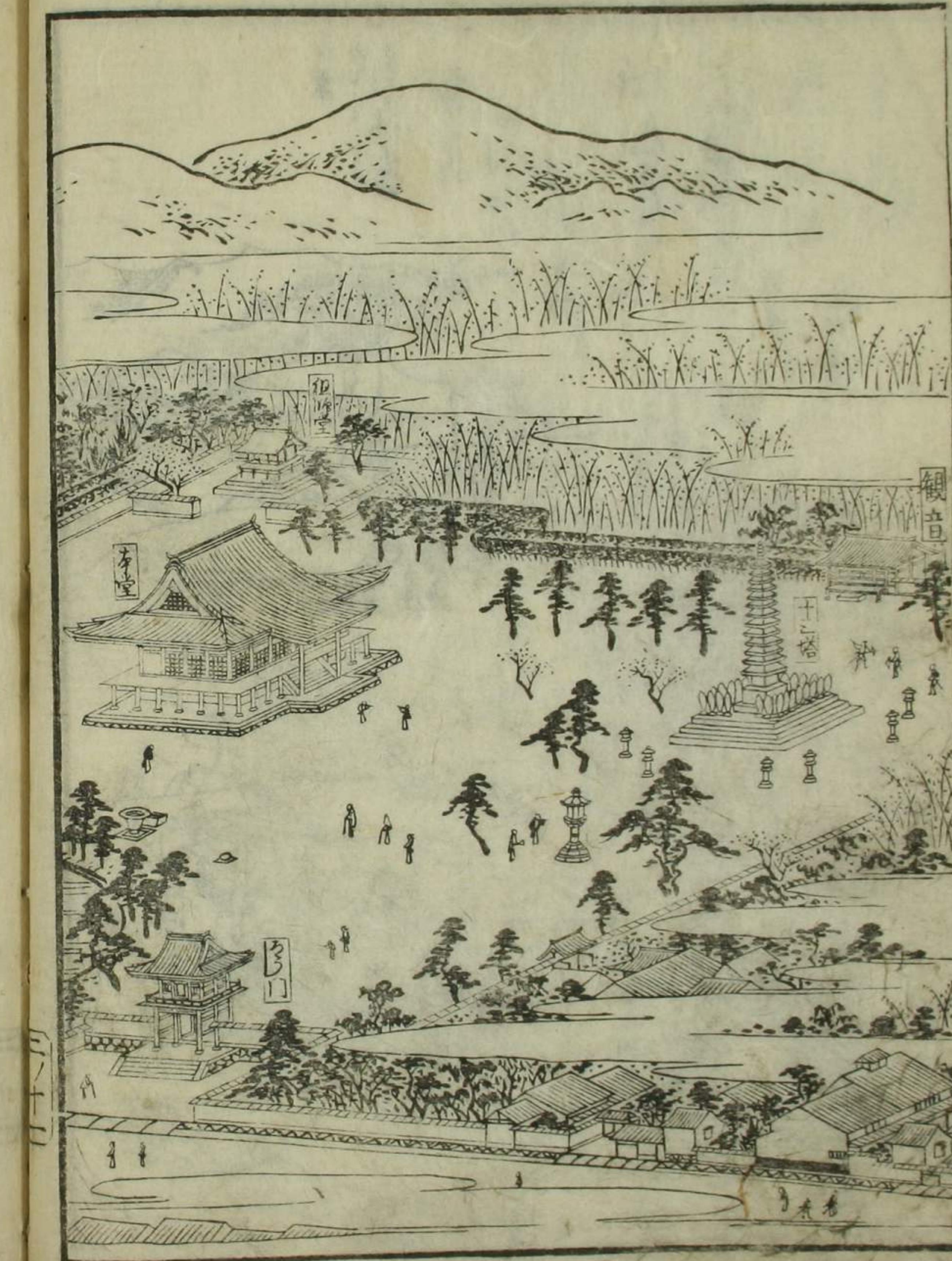
澤の地は眞福寺の寺の内あり、天空の餘暉に夕景をもす。  
此は名よりして猿僧院也。小なり猿はの名により遙くより  
しづくさるの跡門は、さうやうの采桑の白、かき葉等の如きを  
よろひて上人をもよひたりとあざりたりとある。而門をまろかくと  
なれば、さうもひまづけで、門からねじねじて、ねじて、ねじて、  
ひさりお臺のふかうて、見えぬひそかに、おほえおひそり 中畠  
其のあんじんせーとれどよかみをふせく様はのばるがうて、うるがう  
ほえ清門、不思議のうきふ半のは力とあらぐ人のうきふ清門  
圓いわくうきふとひまつあつねうぎりうきふのやうりふおひんみゆく  
給くんくふ奇よめう給く柿か人丸

とよからぬ門  
様のじよそくがつるよりもひざわらひすま  
とよみ絵ひうりねこのじよふ臺くわやをかひくさんかつをかへすま  
りとくん

采女祠 猿ほの比れ像ふわり元要記曰興南院権僧正映祐勸請とて之  
宋女より人の名ふりへ官職（うぶく）大内袁の御時節令配膳の役すと勤め女へ  
衣掛松 下門所小あり采女身（みづか）は投げ付（つけて）て木の枝にゆくを  
支木 古樹もく木檜（ひ）後人被繼（ひつら）  
猿ほの比れやうやわんまゆる變化放みうよん 義明院宰相  
猿ほの比れうすひあくそまゆる變化放みうよん 胜明院法師  
楊貴妃櫻 由所小ありむう真福すとぞ宗法師といへり  
いと愛す（いとこころす）猿うれもくけ名（な）がゆけりとゆく  
轟橋 東大興福寺の中向押明の門  
十三鐘 猿ほの東  
小あり



般若寺





佐保川



二二十三



後赤松百番合  
あ上小  
くみみ  
ゆけれ  
佐保川の  
とくの  
とく



# 珠光之茶室

蓋所土門氏の家もあり珠光翁茶が勝て道利義政公は世小鳴其後東都歸水門とて新小居には茶室永禄の名を

# 祇園社

宮佐所東側小あり遠久の中古に勧請そとく或記曰本日十日見

再び金澤の茶室が移ること云々

# 感徳井

押上町東側人家の傍小あり又從水井もまたむく小所小町某と云ひ

のすいと水の水しづか水井と云ひ

# 本晁山門天

西手蓋所南側小あり初へね永久秀かつ居城多門小あり其れ

に永久門天と号す後世本と称す

# 初宮明神

鍋谷町東側小あり毎年十一月廿七日あ大門の波小

田樂法作はあく氣乞がお勤ひとく

# 佐保殿

舊蹟冬嗣大臣家と云々

# 尼池

中筋町五側人家の裏小ありお竹へじく大池うち一西方御くばれ今

に小浦とを號す平忠盛の後室也

尼住一四角石塔とて

# 玄昉

院所崇徳小あり又下小浦五輪石塔あり

# 韓神祠

高大町の奥漢國所の御小あり

# 車川坂本陵

門所念佛の奥小あり人皇九代開化天皇の陵は仰宇六十年

四月九日小崩トキ人聖壽百十五歳

萬葉

林小路町小あり宗二原中華の裔めく宋の極北諸の裔小して林深

# 鹽瀨宗二跡

とく人本朝光明帝曆應四年小建仁寺の龍口禪仰宋より序刻の時

# 百萬辻子林

小路町西側中筋より小至所とて西所とて西所西照庵小今石塔婆あり

# 餗頭屋本

中筋町五側人姓が餗頭と改む初ノ南郊小位一餗頭分割奉て饗祭人足柔良

# 經子社

中筋町小あり又北市町小あり又北市町と云々

# 大井

門所南側人家の裏小ありお竹へ弘法大師の塚あり

# 松永久秀城趾

門所南側人姓が松永久秀の傳承の人と攝州高櫻小位一

# 眉間寺

門所小あり佐保山とて聖武帝の所頤へ長寛三年中

# 佐保山南陵

門所南側人姓が佐保山とて聖武帝の所頤へ長寛三年中

# 大石

門所小あり佐保山とて聖武帝の所頤へ長寛三年中

# 度考

門所小あり佐保山とて聖武帝の所頤へ長寛三年中

# 大石

門所小あり佐保山とて聖武帝の所頤へ長寛三年中

善城寺

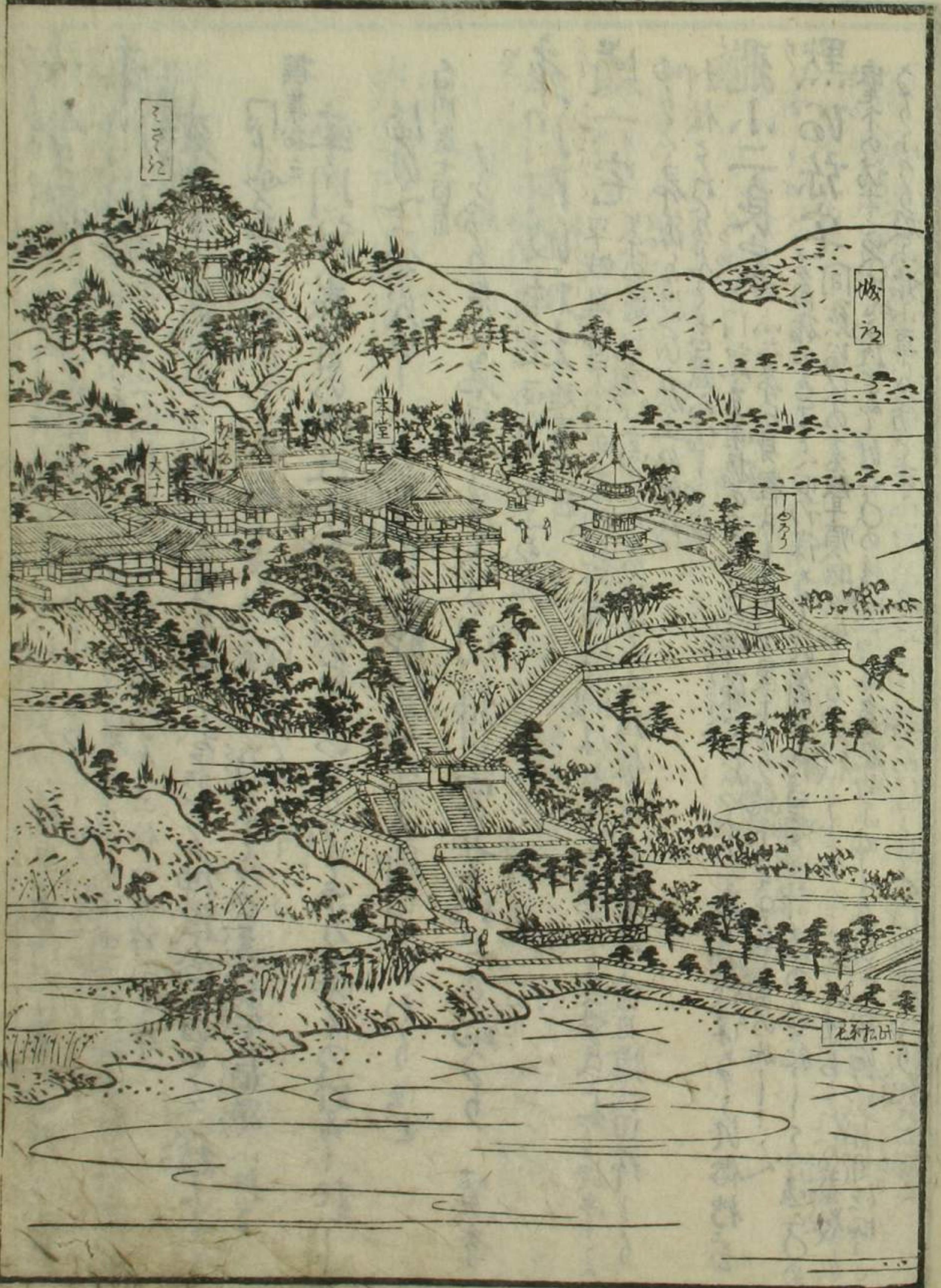


眉間寺

多内山

松永久秀の

城跡



手令森

下二條町菊御山ありの内（神功皇后と韓退治の御時住吉大明神と太將

車川祠

或記曰第一陶化天皇子ニ子守神有二住吉明神也

公事根元云

車川祭上酉日（春日祭）のあつ日をもる神祇令小のどるニ枝をも

ノド少廻く四月少く五月（合意解）枝をもとて火事ニ枝々酒樽小物

撰集ね云

車川社春日の御社小のるらのけくいさぐりとやりんぞくの神めりたれ

ゆゑへ太下みりこじとくみ能ひうんとみの御ちうひあり云

白川屋七百首

車川阿波神社

延喜式出

車川阿波神社

西城戸町小あり

道六宅

平城趾跡（小引）西東例禁端川の側は家がて道下る其姓氏と都（近常）

黙の旅宅

茶の通（公卿）高名あるの源（千利休）と（詔）の日道（田所）より

飛小二良家

（記）角振の（小二郎）身輕（すく）に（高）屋（たか）に（高）鳥（たか）の（め）

詔

（角振の（小二郎）身輕（すく）に（高）屋（たか）に（高）鳥（たか）の（め））

光明院遺蹟

（附）其遺蹟之

植葉和譜集云

光明院小のま義經の料紙の有しとすら有り

八秋のそろからむ

可須理井

（附）井の其一貯（貯）

手力雄神祠

（附）小の（附）

阿字元字町

（附）門町の（附）

（附）（附）

裸大師

高弟一所會所小あり弘法大師の化と云

小塔院趾姓秦氏みて安國名格が邪の泰年十五而して元真ちの加羅人  
法師小仕事等と小入と苦ひて一箇月の太常おはあひ月の上法とて云く入てりび  
不法も本寺に之を學ぶ又か吟く口の中小供舍利一枚とが浮くりその後  
頭上に又一枚が浮くり靈異頻に見れ天長四年修正二年八十九月三十日院  
終る其附天樂院内小法正の傳日本紀小アソトリス法論味醫といふあり護令  
修正の製表札へ故小人多う護令味醫ともいひスは所起名門のやううと之の名  
院を修正としめん著聞集云或ア太支敷光鷹のりと余るうりける傍のあそ  
みそとくわがりそ本モリケン少ひ御のばくら我とひきしを修かくさん

さつみがちくとやぢにてまつゝん 敦美翁

豊成公塔

四行幽考云高僧小ありしとて入まくとてせばける塔

宝井とやま連お師人あとかおうらにあらねが下にあらぬく只く  
のう秋やなに石乃井

と匂ひい生れとてうびどひ止りくとくとくありけり延寶八ノハシ  
鳴川の大念仏寺小より御へとある人々りけりとぞ

飛鳥井

白と过みすあ例巽隅民家の奥もあり傳云え興寺の不老寺と云ふ

ありゆけ名あり又飛鳥の薬師院にあり小清之

誕生寺

三棟寺小あり竹云け所の後佩右大臣豊成公の殿舎之中將指はれふわから

誕生水

誕生水と云ふ後寺と云誕生寺と号一今女僧住職に

誕生水

靈水あり

南都の傾城町木造塔とて縦横小ありは所の初豐尼太僧小塔  
虎藏竹菴とて二ノ奴あり秀吉公薨去の後蟄居一两年半の暇と  
そむける竹菴其須布都小住姫氏の妻子とて姫布を拂と号し虎

藏

虎藏竹菴小住居分の爲其附の金盛うち方丈万戸とて有分

安養寺

らひ寛永六年に有村小ちく傾城郭が所居一棟里分創建に

紹巴屋敷

あ城戸町東側小ありて一ノ貞福の内小あり後世に移され  
極樂院

本院所有例小あり法師感保の曼陀羅

御靈祠

御靈祠にあり洛陽所靈ハ所小口一勅請の年記

元興寺

日本紀曰推古天皇四年小聖德太子守空とて飛鳥法橋アガホノカミ人命て連

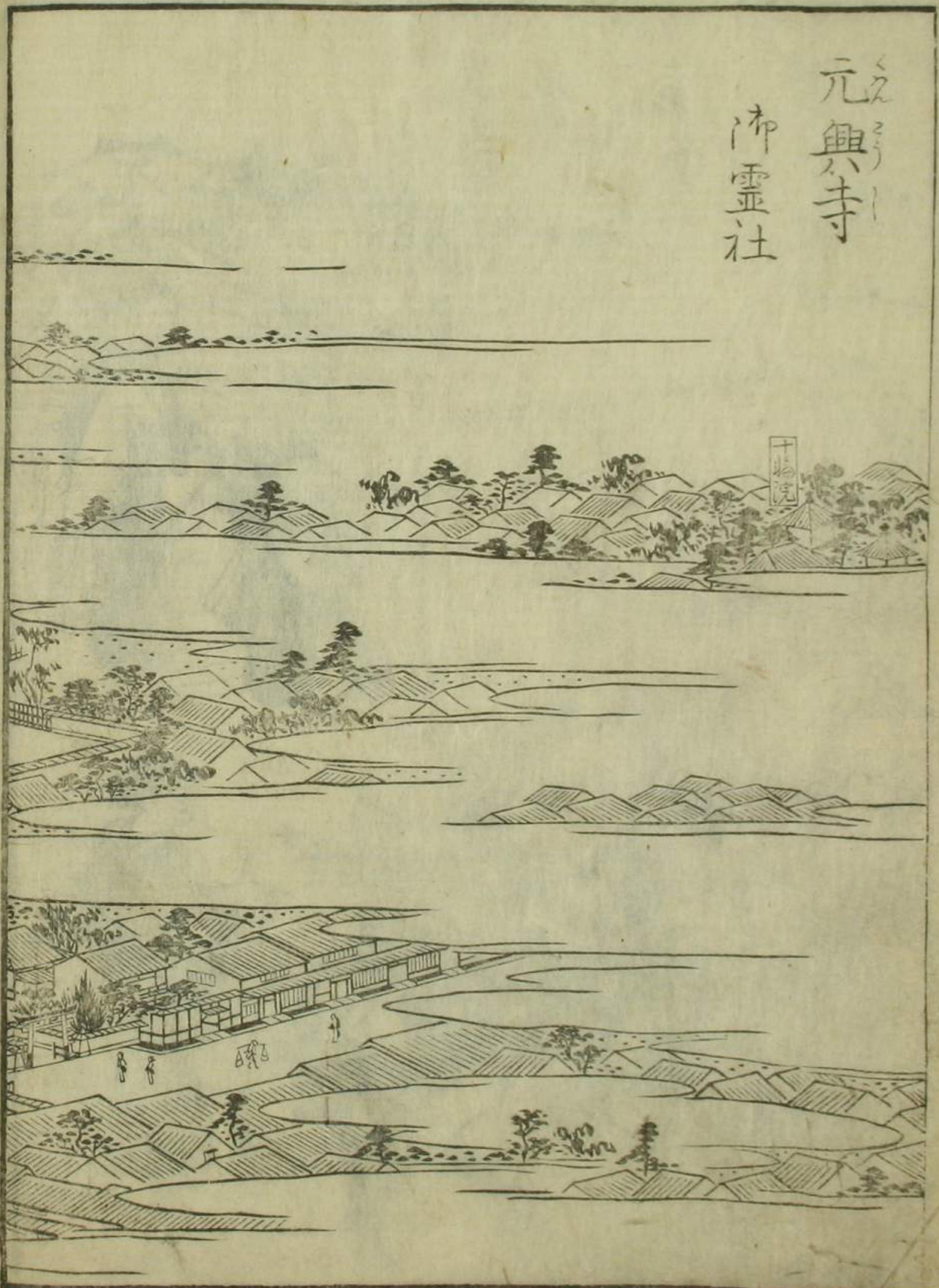
飛鳥寺とて法興寺とて玉林院の額南に之を真寺北小法滿ち東よ  
大和本山安富院二字小觀世音菩薩也之を尊むとて五帝塔す  
靈本の主とて開かれて良谷と號すそそら人には觀音に諸不の法淨を後  
長谷まれ本の叶すとて順礼記にアラマリ昔は塔に鬼の棲けりゆゑと傳へ

鳥声非故國  
春色是他鄉



元興寺

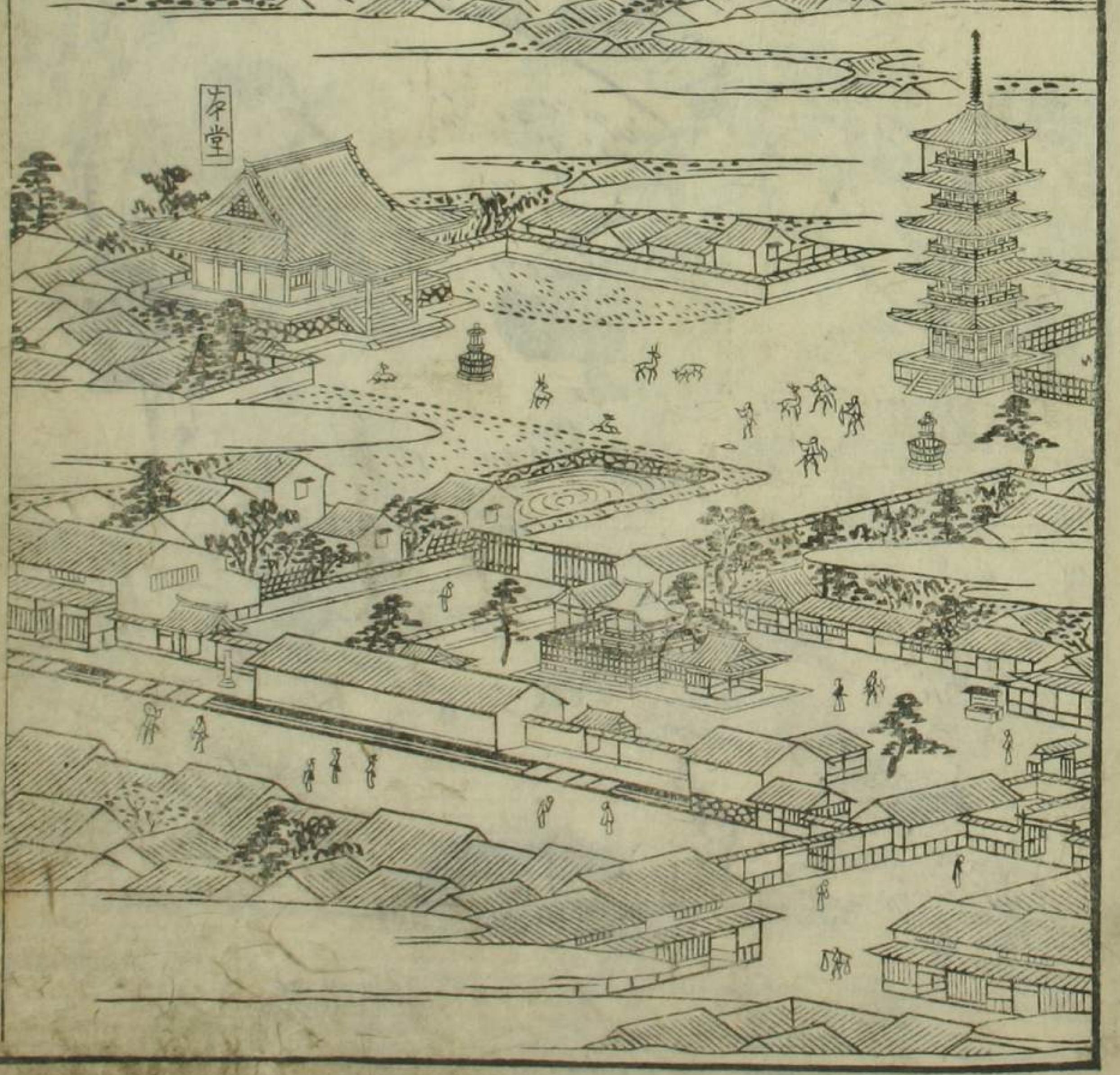
布靈社



二ノ九二



菩薩福



いはい  
女と鬼と  
あふ  
元興寺小  
ゆゑど  
りふる  
がの名



能登

大和志日あ原春日の東南へてさる畠紀をまく  
川瀬井川ふ入

紀

奇枕

みどりのあ夜ふてあやしくふく美とへはくふくろくも

紀

富士権現

木瀬村小あり侍ニ初ハ伊勢春日二神が祭る也

紀

道祖神

今御門町小あり木神猿田彦命

紀

朝野

魚養塚碑

十輪院附十輪院の跡蹟小あり

朝野

魚養塚碑

名年うりとす字は廢滅れ

朝野

遣唐使のと傳こう小わらわい小妻にゆきてすが坐り其子を初年と

紀

日本小隊の妻小嫁と白あて遣唐使の余り消り事かべてこの足鹽  
と鹽とにはどく達するがとひづるく序物の海遣唐使の事と無消息  
やあらうるねりとてあてもるもと一母おほに奈良とけ四百人を多く日本む  
さく四人の首小遣唐使そなへどよこ簡公すくもひづれとそくさせ  
わくぶ親子のゆく行幸をとひて海小遣してつりぬ又あく時経波の浦  
のをくらひ小津のくふをえうびとあるふてえんにわんに迎くらゆ  
アキシモ童少くとあやうに馬がくとまれととせくう本ふくは

(テ九三)

うる四のあらくあくけあきはづなくうりて馬がくとせとまをたまう魚  
の脊小のまくはづ者がりとてまくとまく方をれ首がわら遣唐使そなへどよ  
のをくらひ秋がくまくわらわらと海こくまくしめくとまくと毋が販も  
く海ふあけとてまくまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと  
おがくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと  
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと  
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと  
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと

紀寺

紀寺口とて人跡小わら而名璣城寺とて人跡基苦薩の廟基極武を封戸は

紀

鬼界

鬼界村東北邊からて鬼界と號別疏茅渟の別名とて後に遠流とて

紀

頭塔

大和志白清水町小わら俗竹と僧を

紀

清水

中清水町あ例人家の裏小わら五月五日天瑞宮をかわ

紀

**赤穂神社**

春日畠所本傳小あり神燈臺石小

**不空院**

不空院过子有東側小あり僧鑑真墓一

**隔夜堂**

宇治町の東丹坂町小あり南基室也一人もひづる道ノ傍に立候  
觀世音が行念もさう今にとんび故小

**新藥師寺**

不空院过子も例小あり序順記曰聖武帝御眼がれせかへり  
有樂齋のぞまの好れ

**新藥師寺**

藥師の像が佛造立の間にそんぐりゆきと云寺の奥小織田  
故あり

**鏡神祠**

大和杏日新薬師のあらあり其作へ  
爰原度繼いはら人牛太官不比等の孫式ア卿字公之子

**勝願院地藏堂**

勝ス東方小古内塔あり少老母圓境を納メ所之也

**不退寺**

不退寺村小あり左系業平の子創して平城天皇の位め官の仰

右近衛權中將在原躬名者平城天皇之玄孫阿保親王之立男也

元慶第4層敷實井自行年五十六卒

大仰月おほつきもてて見せしとれ人れ老おとこもの

**法華寺**

法華寺村小あり律宗みて尼の國くにとす借淡海うつみの向寛むかひり公

**模笛堂**

光明皇后こうごう法華寺模笛もくぢの女めの説せき榮え也堂どうこのひの東ひがしをいた大官正三位  
建立たてらておはり御ごおはりへ聖武帝東ひがし佛造堂ぶつぞうどうあり十内陣うちじんに女身めじん也

**海龍王寺**

法華寺の東北ひがしの方ほう、律宗天平てんぽう二年光明皇后の建立たてらとす日を昉あ生正せい也

**元明帝陵**

法華寺北きたの北きた小あり弘法大師ももは祈止ひし仰あ生也

**元正帝陵**

法華寺北きたの北きた小あり弘法大師ももは祈止ひし仰あ生也

**居市社**

大安だいあんの村むらのあふわり春日記云居市社いじやしや俗ぞくに居の宮みやとす春日明神みやこめいじん也

**東方社**

北きたの村むらの北きた小あり時とき也よ御ご方ほうより之そを大加志だいかじ言い西にし也よ

**倭文社**

北きたの村むらの北きた小あり俗ぞくに云いこの楊梅陵ようばいりや也よ御ご方ほうより平城天皇の

**元正帝陵**

法華寺北きたの北きた小あり弘法大師ももは祈止ひし仰あ生也

**居市社**

大安だいあんの村むらのあふわり春日記云居市社いじやしや俗ぞくに居の宮みやとす春日明神みやこめいじん也よ

**東方社**

北きたの村むらの北きた小あり時とき也よ御ご方ほうより之そを大加志だいかじ言い西にし也よ

**倭文社**

北きたの村むらの北きた小あり俗ぞくに云いこの楊梅陵ようばいりや也よ御ご方ほうより平城天皇の

**元正帝陵**

法華寺北きたの北きた小あり弘法大師ももは祈止ひし仰あ生也

**居市社**

大安だいあんの村むらのあふわり春日記云居市社いじやしや俗ぞくに居の宮みやとす春日明神みやこめいじん也よ

**東方社**

北きたの村むらの北きた小あり時とき也よ御ご方ほうより之そを大加志だいかじ言い西にし也よ

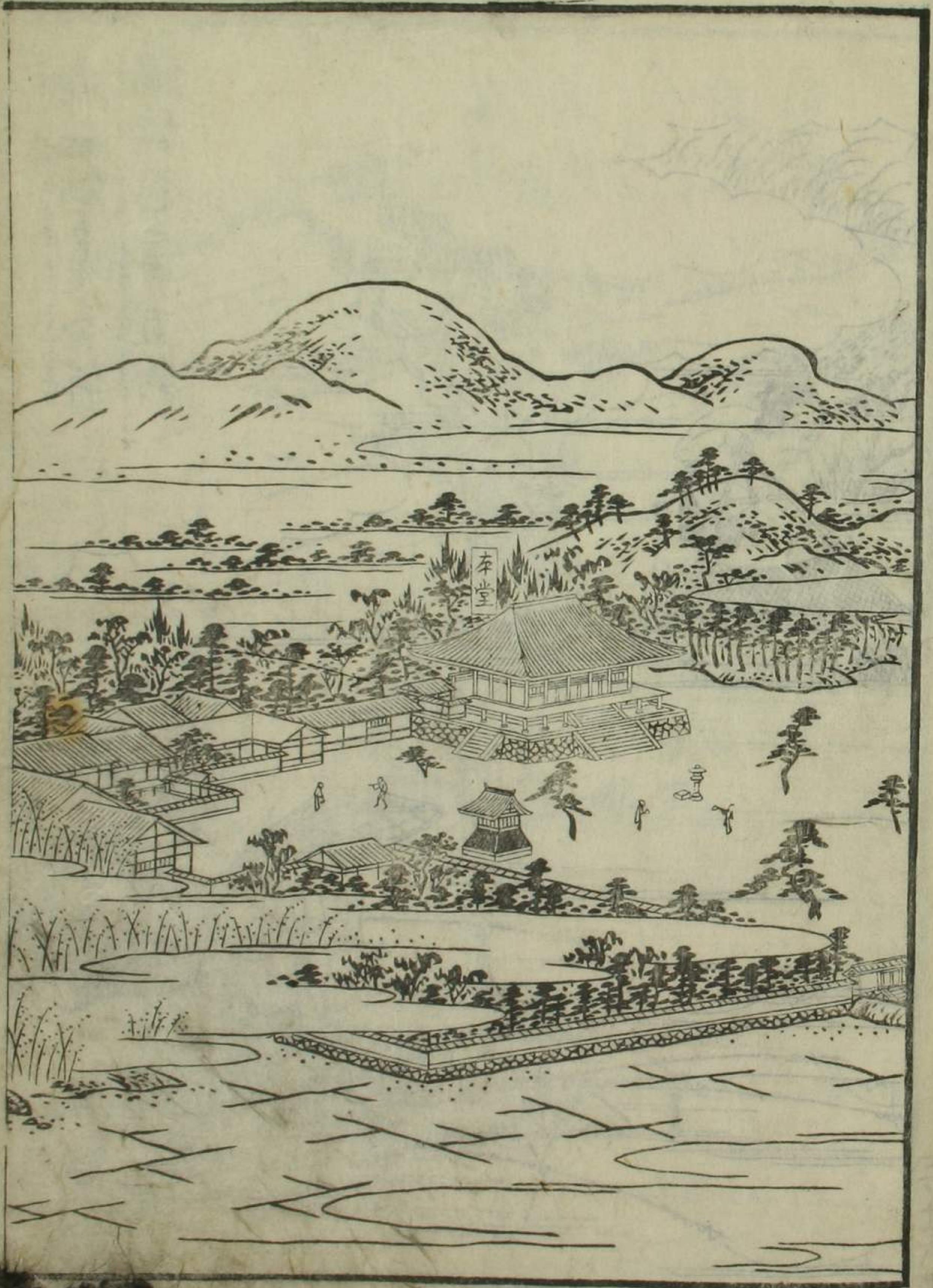
**倭文社**

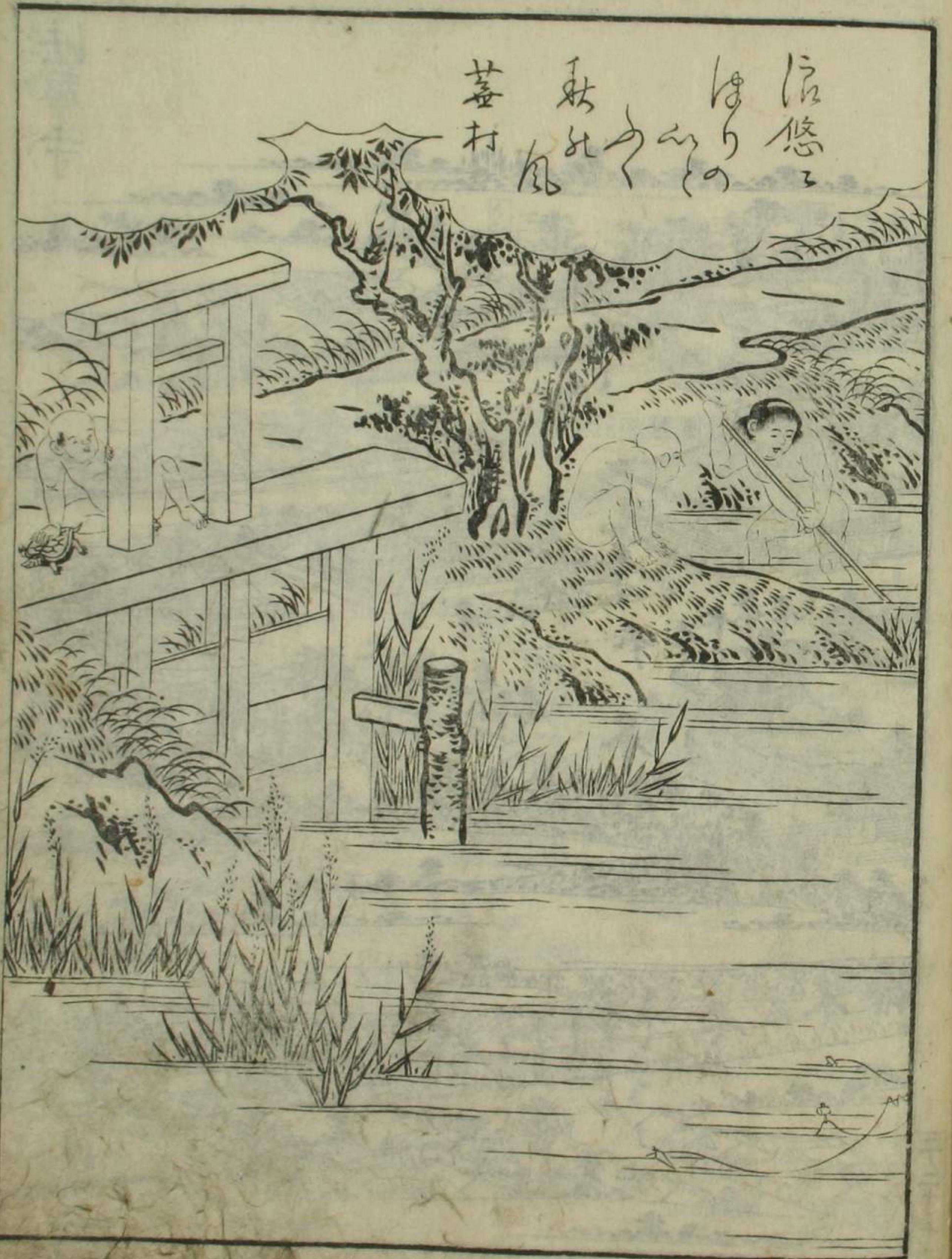
北きたの村むらの北きた小あり俗ぞくに云いこの楊梅陵ようばいりや也よ御ご方ほうより平城天皇の

**元正帝陵**

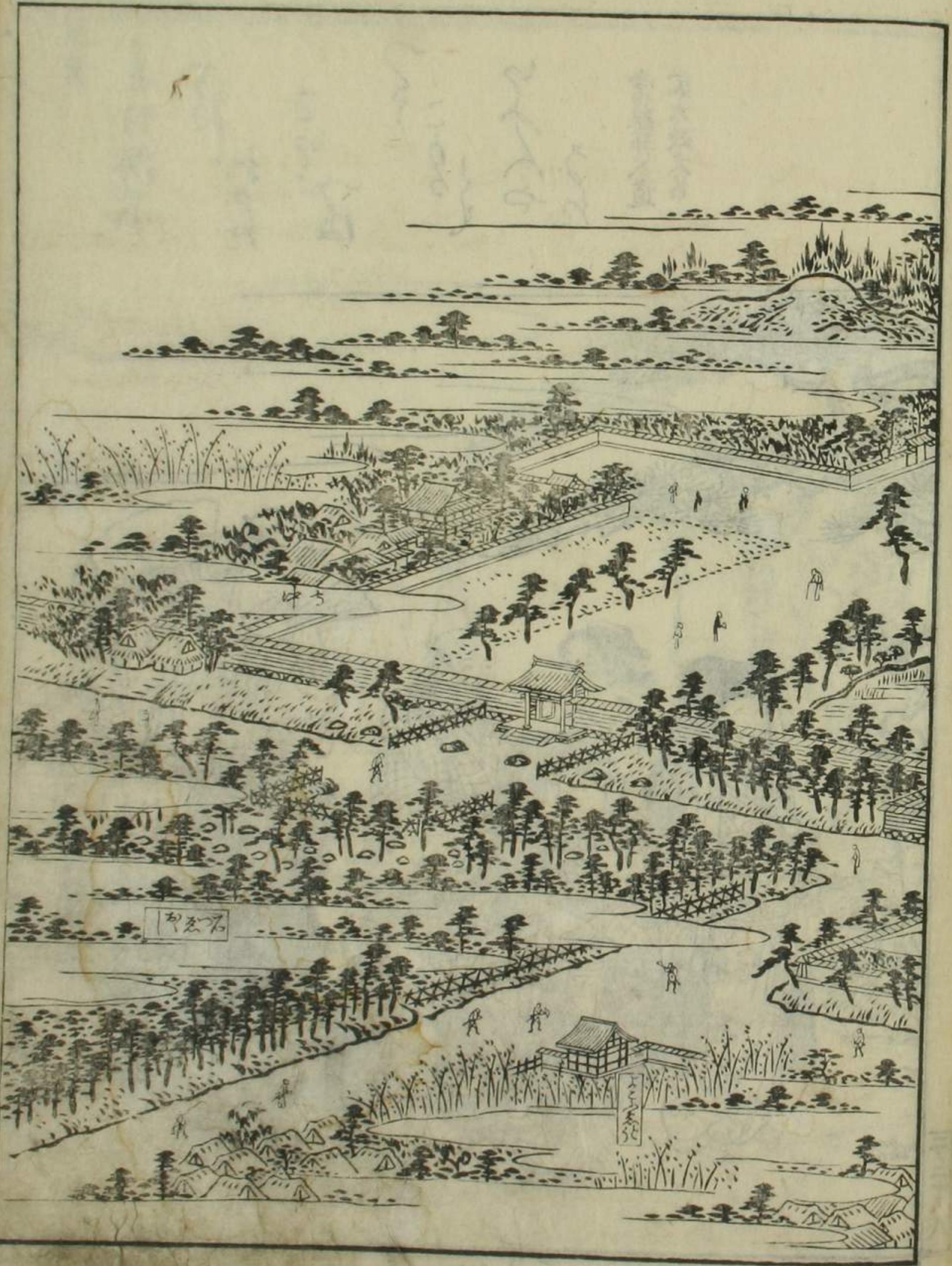
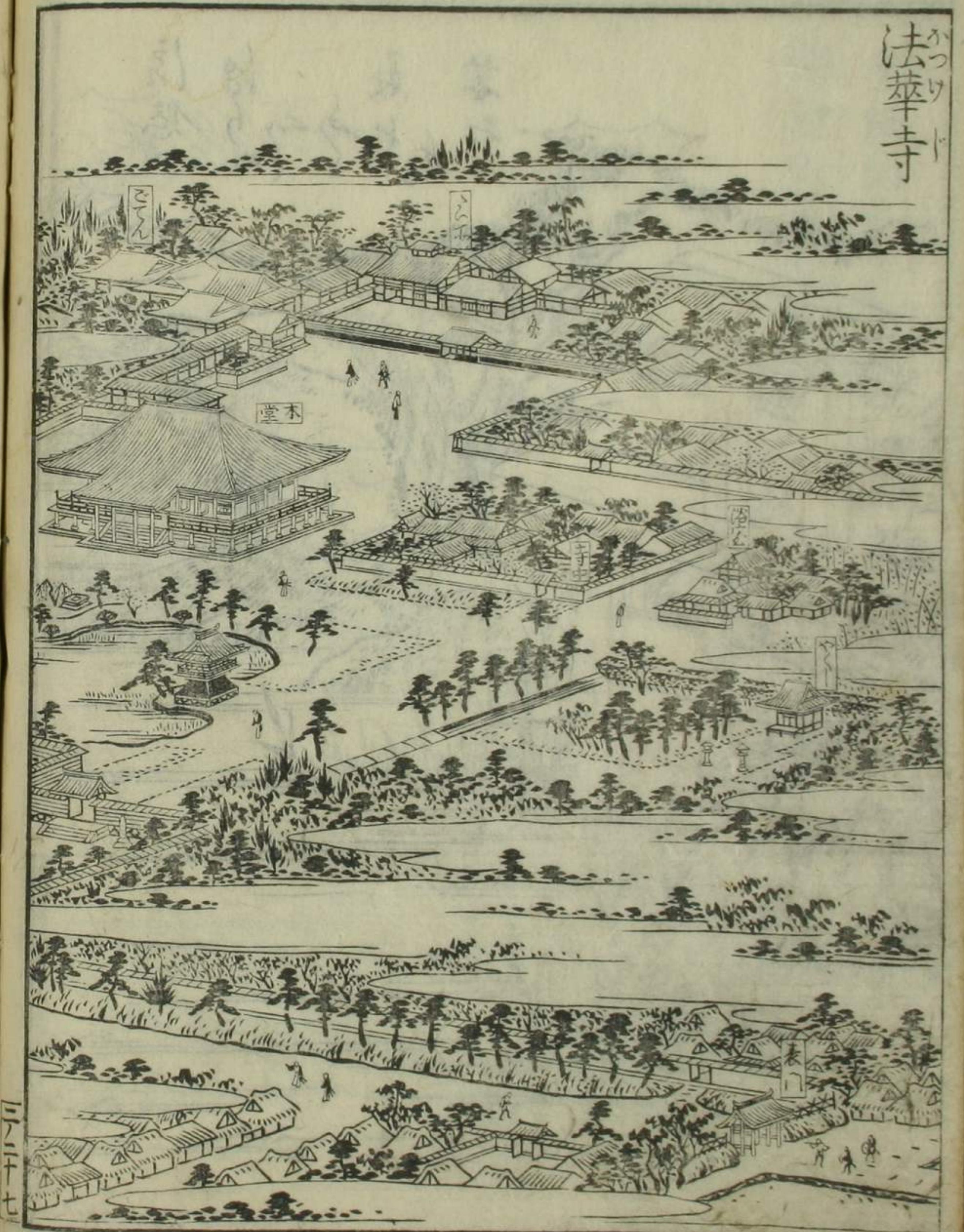
法華寺北きたの北きた小あり弘法大師ももは祈止ひし仰あ生也

不<sup>ム</sup>  
退<sup>タク</sup>  
寺<sup>ト</sup>





法華寺



王集

喜日野小

わく

さひ

こり

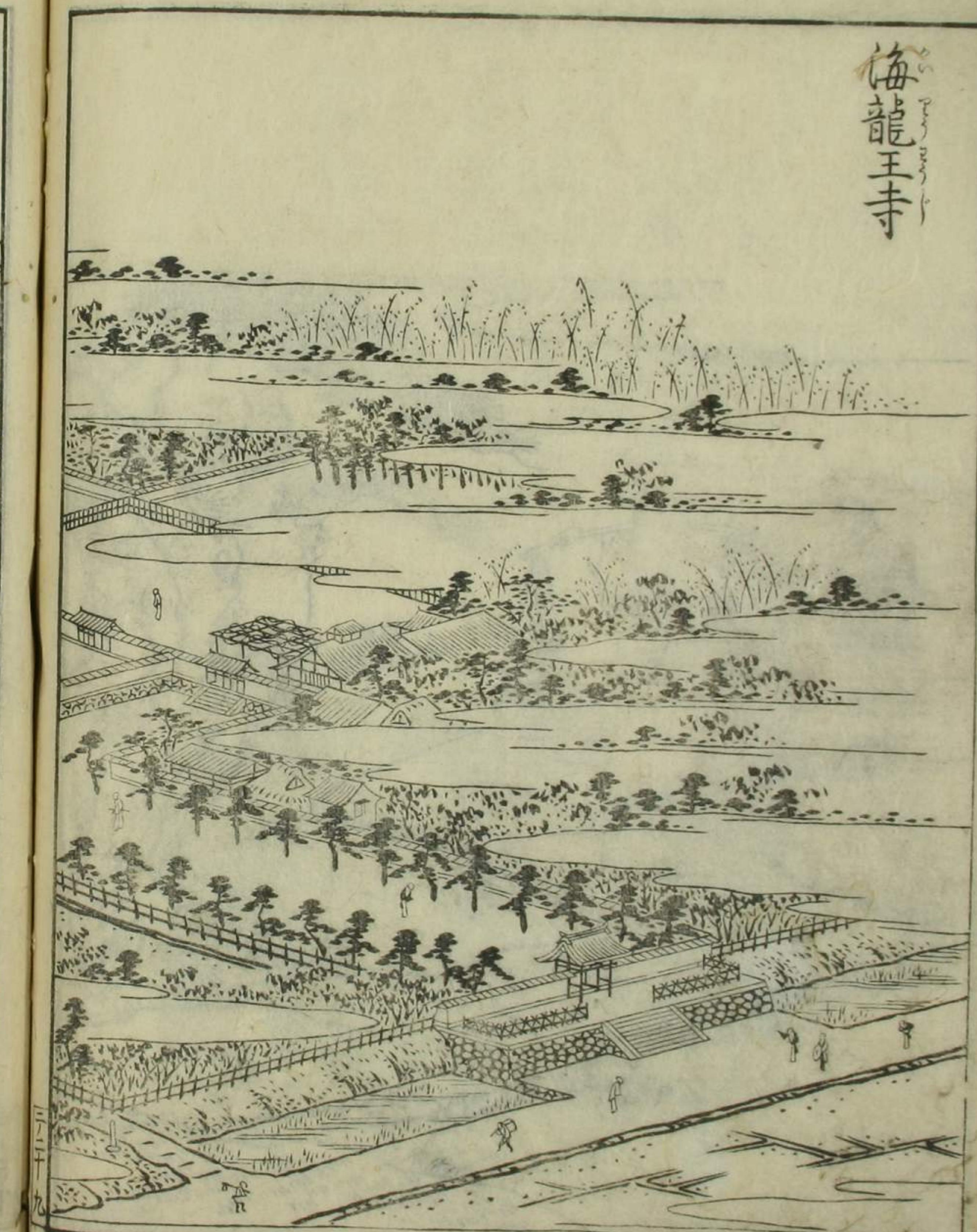
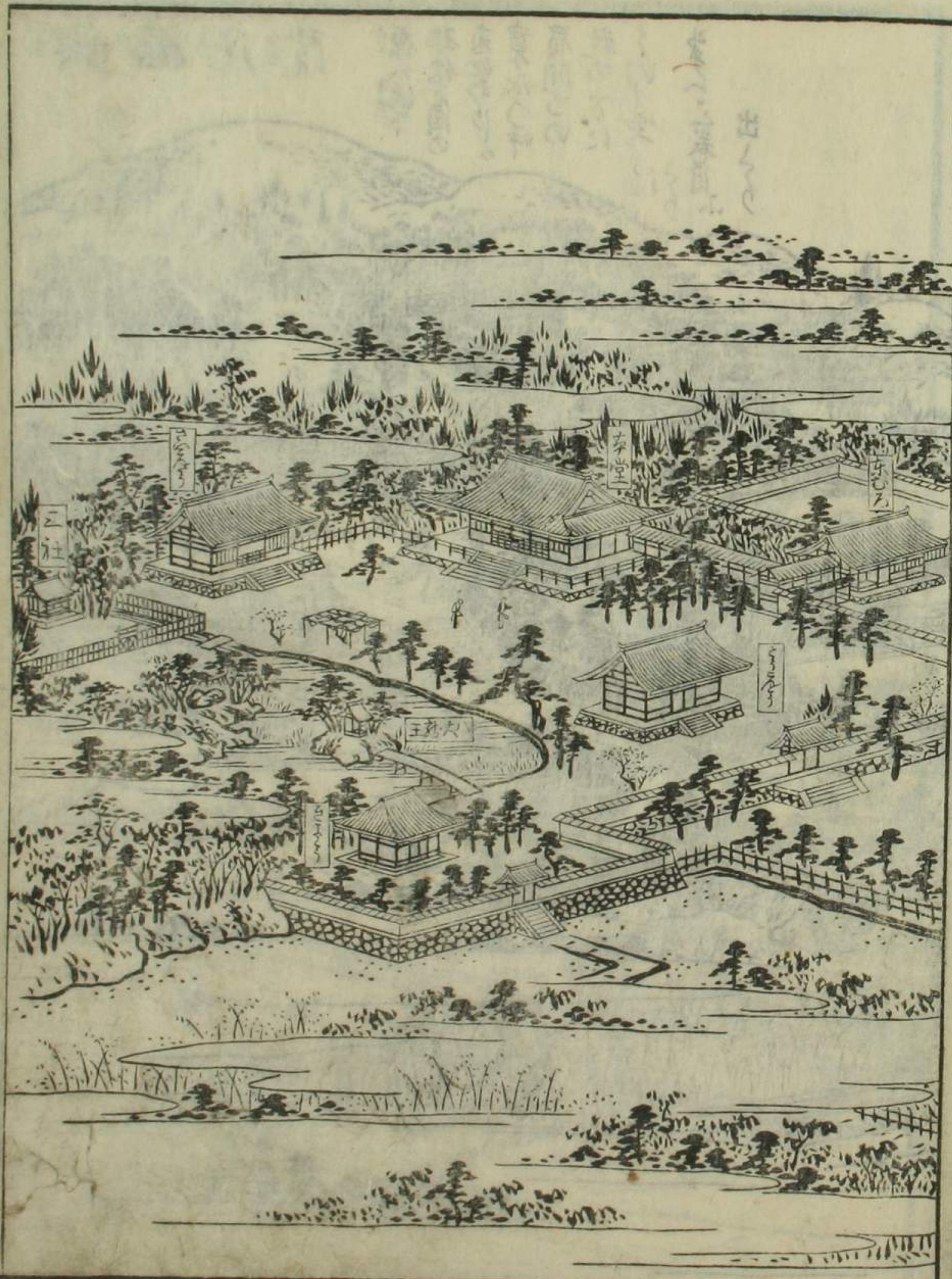
うんや

うる

常盤井入道

前太政大臣

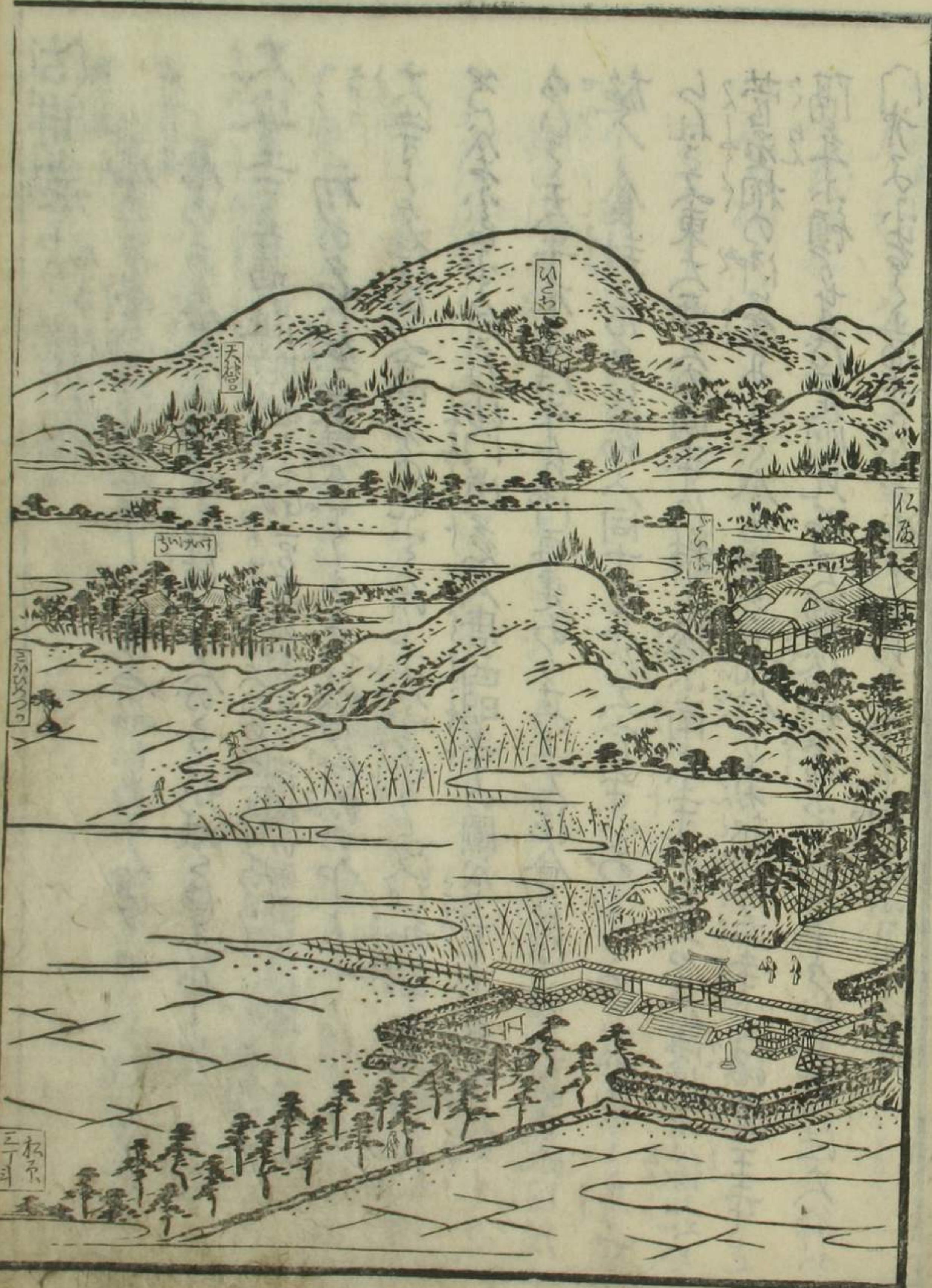
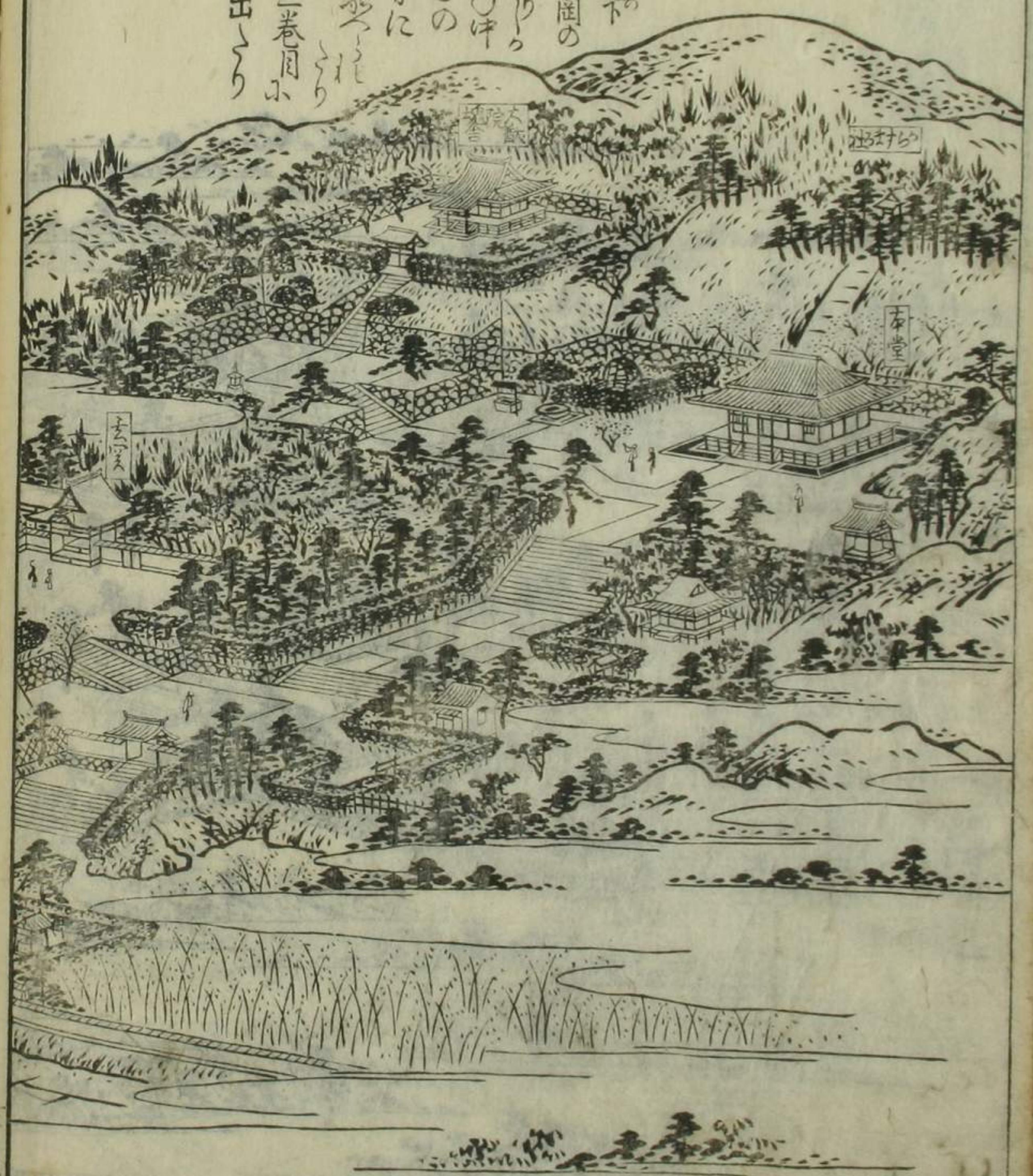




海龍王寺

興福院

原  
郡  
有  
於  
寛  
永  
の  
乾  
の方  
に  
出  
ま  
く  
こ  
巻  
月  
下



古間泉

かうくわら條村小あり

散木集

居の市東村小津は

建保百首

居の市東村小津は

居の市東村小津は清水涼しくてくらひある山也と並まれ  
大安寺舊趾大安寺付、ありあ鄰せたもの其一、アハ藍碧也初の名無れ、疑精舍アハ藍碧也其後有ゆるのやどり、下りて百海  
大寺と名づけ、高石の城下にて太官寺と改じ、和銅立年、アハ藍佛像  
考文奈、小山の内道、大唐西明寺の圖、上、下、大安寺と号せ  
あひて天平元年、寺本公卿再建あり。其上大法會、アハ藍佛像水田公  
施入、食封一百戸公賜、同十七年に太官寺をあへて、大安寺と号せ  
られ、又東大西大の兩寺に附して俗、小南大寺と云ひて、持當寺、アハ藍佛像縁起、  
營、西相の拂、等めぐる今世、アハ藍佛像相伴り、阿鄰般若寺と海龍王寺と  
開年小領、足則北野天神俗別當、少く、おーク、弘法大师、  
門才子小生、當寺本公奉坊と定めたり。因記、小刀、そぞり

宇治拾遺日

今、むうすの太安寺の別當うりける傍の安井と云ふ、今すりりん  
の身、ひそまへ、経、小せきと、心へ、かり、氣をとらへ、憂すと、あり、うりあり、用  
をも、休、くらけ、爰に、俄、じ、家めうら、下の、人、もみと、か、あひ、け、  
いから、も、や、を、あ、や、く、れ、立、安、く、か、と、も、の、僧、妻、の、尼、ひ、そ、  
も、と、そ、あ、と、も、人、も、大、あ、る、土、器、と、そ、け、て、泣、く、り、く、足、を、下、  
銅、の、湯、が、ゆ、け、こ、と、ふ、と、い、あ、り、く、思、の、欲、せ、余、を、も、の、び、く、  
あ、た、湯、で、や、か、く、の、む、あ、り、け、を、か、く、と、の、床、は、ま、く、ス、ま、ひ、そ、  
の、じ、も、の、も、あ、下、ら、う、小、も、ま、く、も、の、ぬ、り、者、か、一、找、ま、く、よ、か、  
くる、石、が、ま、ね、と、け、女、も、を、た、あ、る、銀、の、土、器、小、洞、の、湯、で、金、く、ら、ま、く、  
あ、る、算、と、く、上、く、か、く、の、じ、目、鼻、り、く、り、く、ゆ、と、川、あ、く、ゆ、と、  
み、と、そ、ほ、や、と、ふ、す、ま、ゆ、(ふ、え、ま、)、ア、セ、ト、と、ひ、土、器、が、基、小、そ、く、  
女、房、り、く、ま、り、あ、と、か、り、の、と、の、あ、ん、ど、る、か、と思、て、ほ、寝、ゆ、と、  
只、不、ふ、対、さ、ら、驚、く、ア、セ、と、女、房、く、ひ、と、そ、そ、と、そ、り、あ、う、と、れ

かくもあくまであるものかくす小社あくわをひくりの  
いきとゆゑくらむすがれくねのゆくこまみねねくわへんげ  
さくわもくじておる其後はかくとゆきだうりふけを

柏本杜柏本村小

王吟

お名あ

お名あ

柏木の森のやうをう捨て拂笠のひよ我へとふたり

後拾  
後京

公則

夜雨のゆちりかくもほたれする柏木の杜みりのぐ

馬内侍

とくつめ雨ととくとくと靈乃落る柏木のり

土御門院

真跡カタハナ

萩原カタハナ

勅撰名詩集上郡云々

風雅

柏木の森はト叶しひの世につる足ひあへと我足へ

傍正遍昭

お名あ

柏木の森はト叶しひの世につる足ひあへと我足へ

人丸

お名あ

萩原カタハナ

後京極

まきの太和カタハナ

萩原カタハナ

山家集

まきの太和カタハナとぞきのゆみとだふす物でゆん

人丸

柏木の森はト叶しひの世につる足ひあへと我足へ

人丸

柏木の森はト叶しひの世につる足ひあへと我足へ

勅撰名詩集上郡云々

柏木の森はト叶しひの世につる足ひあへと我足へ

成身院と名づけ

忍辱カタハナ

成身院と名づけ

桃香

桃香郡渡口 桃香郡村より張門谷

名張門

み源より都よりかづく月ヶ瀬桃香谷

八幡

社 桃香郡村名張門の側小河入  
山内小岩法事とあく石佛二軀あり

八幡社

み源より都よりかづく月ヶ瀬桃香谷

光仁天皇陵

東田原村小高こ枝木下解苔润滑人  
其は園の陵也元年十二月正月に廣正にあく花である

烽火

鹿苑花のむり小高鉢伏とて中に民居あり和洞五年正月

火

井里北庄村小高鉢伏とて中に民居あり和洞五年正月

宅布世神社

今八幡と称す 佐村小高鉢伏とて中に民居あり和洞五年正月

火

井里北庄村小高鉢伏とて中に民居あり和洞五年正月

永井池

永井里北庄村小高鉢伏とて中に民居あり和洞五年正月

火

井里北庄村小高鉢伏とて中に民居あり和洞五年正月

和珥池

茅解の町ふらわの方にあり

火

井里北庄村小高鉢伏とて中に民居あり和洞五年正月

穴次神社

古市村小高鉢伏とて中に民居あり和洞五年正月

火

井里北庄村小高鉢伏とて中に民居あり和洞五年正月

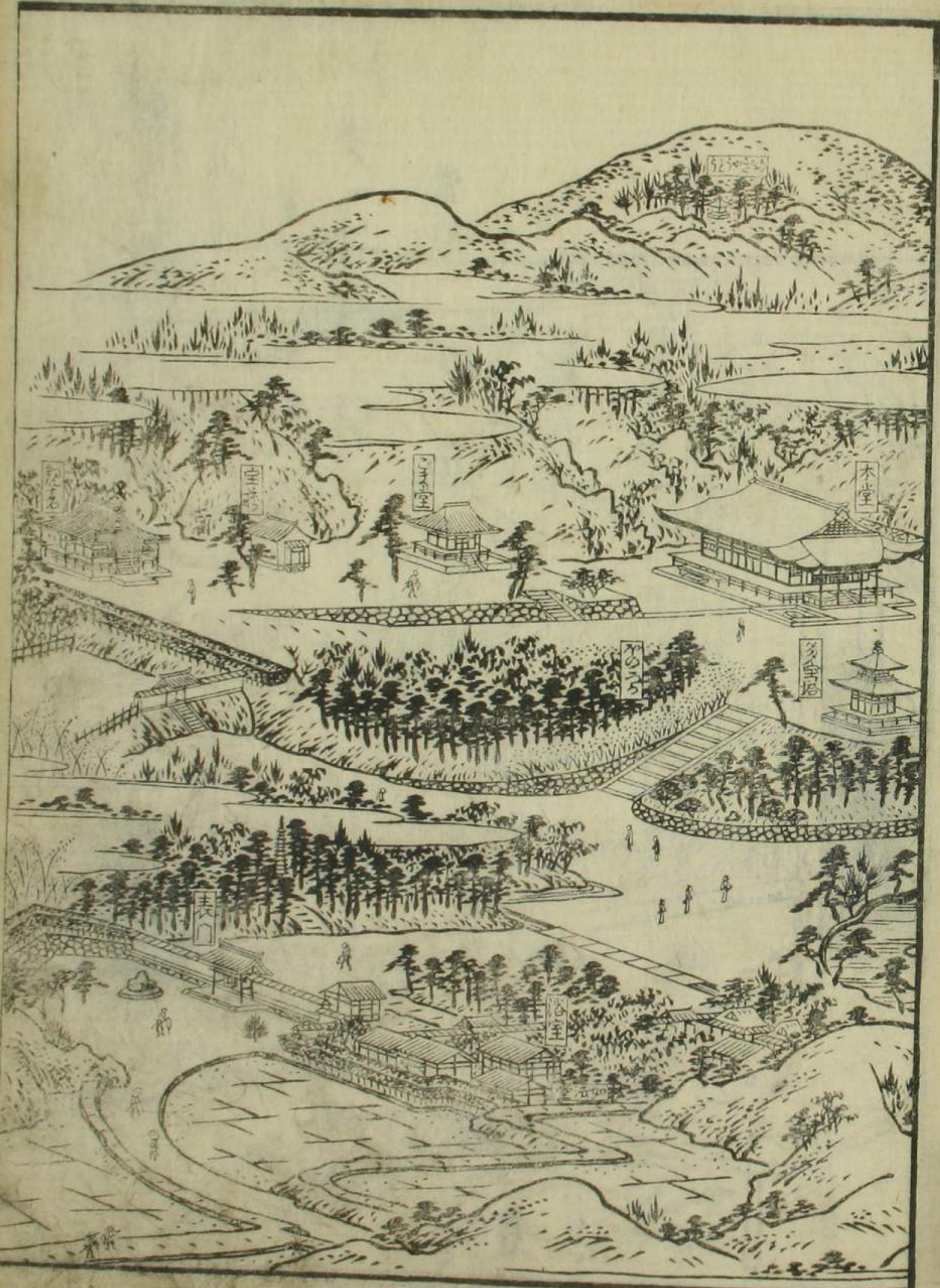
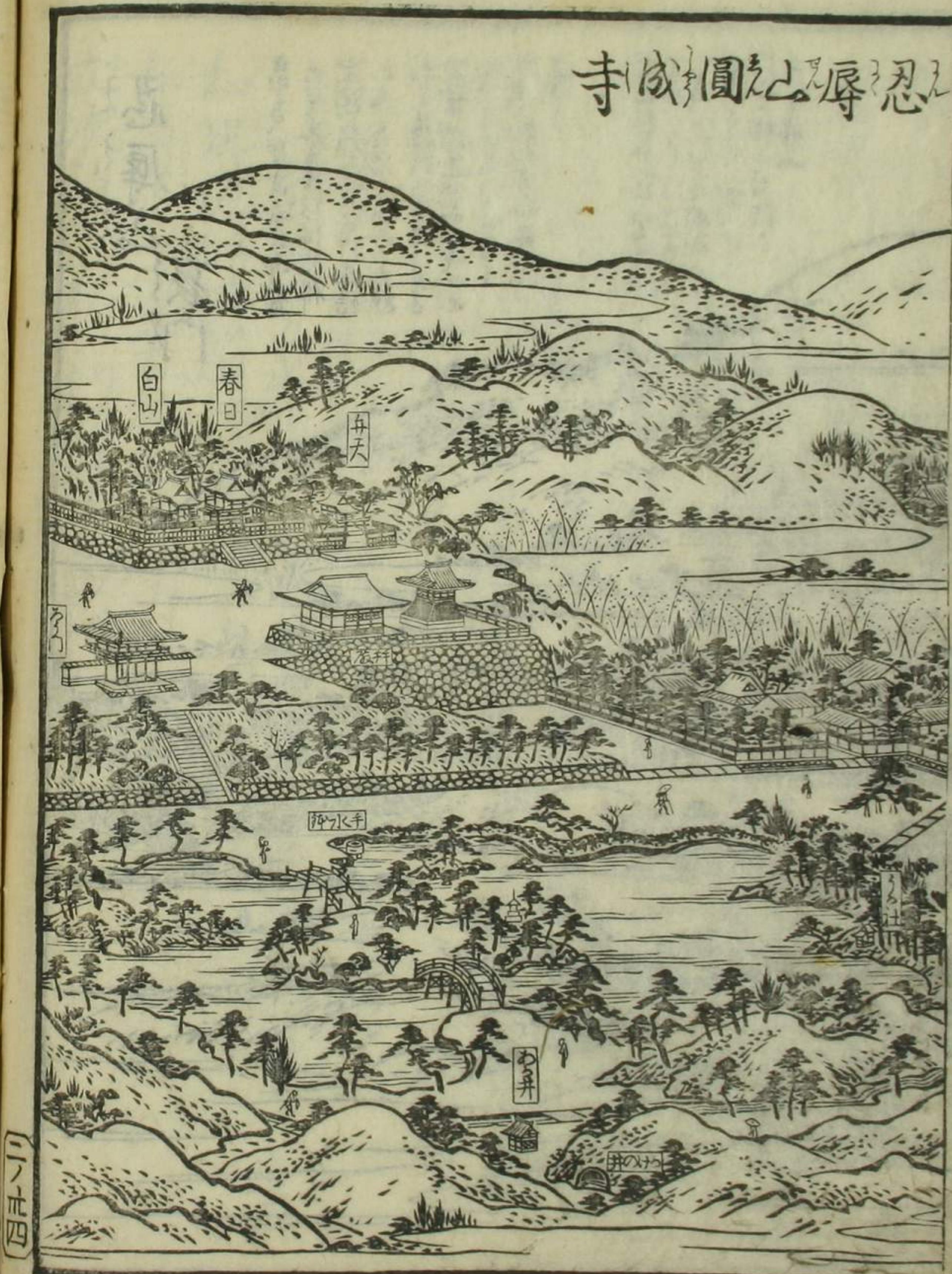
## 忍辱山裏門



あるハ聖武帝御頒  
うて本尊は法隆寺  
定朝の後延喜の益信  
和尚を洛中より移  
住し國成もと号する  
文西の後去ゆきとて  
御榮弘ら園利母  
達す

明星星水、毎第四月  
十四日より七月十九日  
と井をもとて御伽  
井とよ外ハ鎖て  
ほも俗小月はひ  
もと山す

忍辱山圓光寺



敷さらと

タクフ  
タクフの  
割け

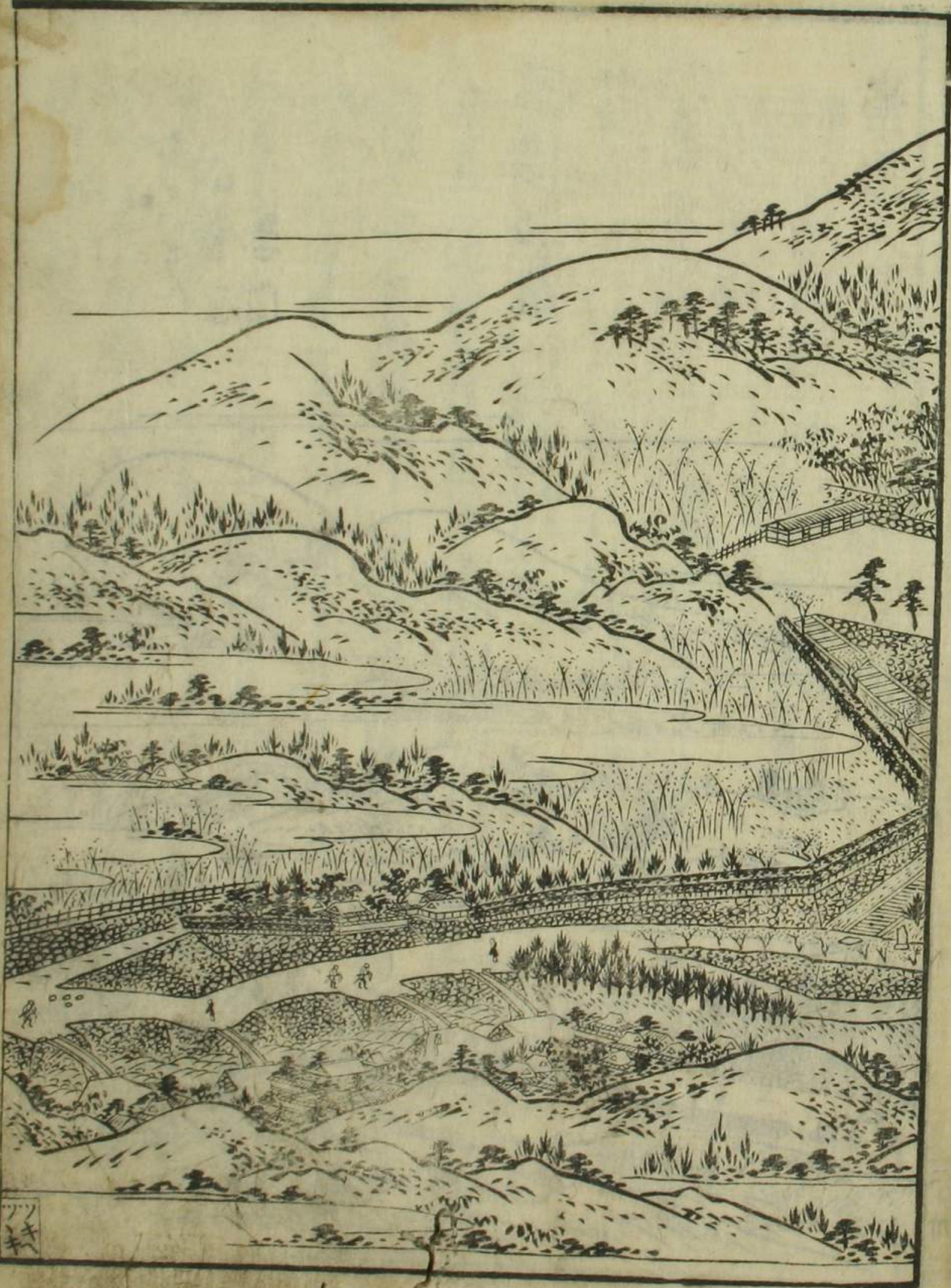
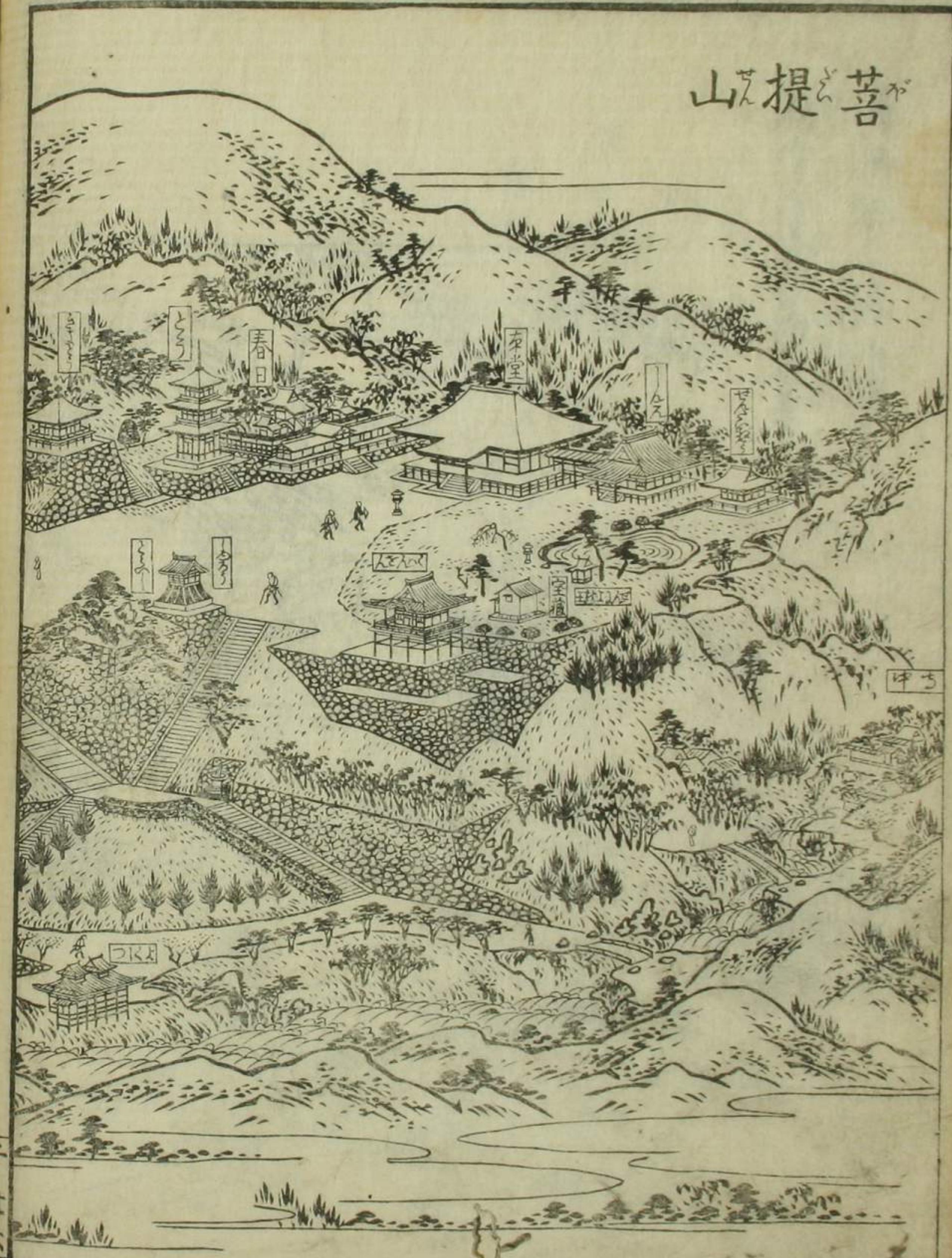
常組



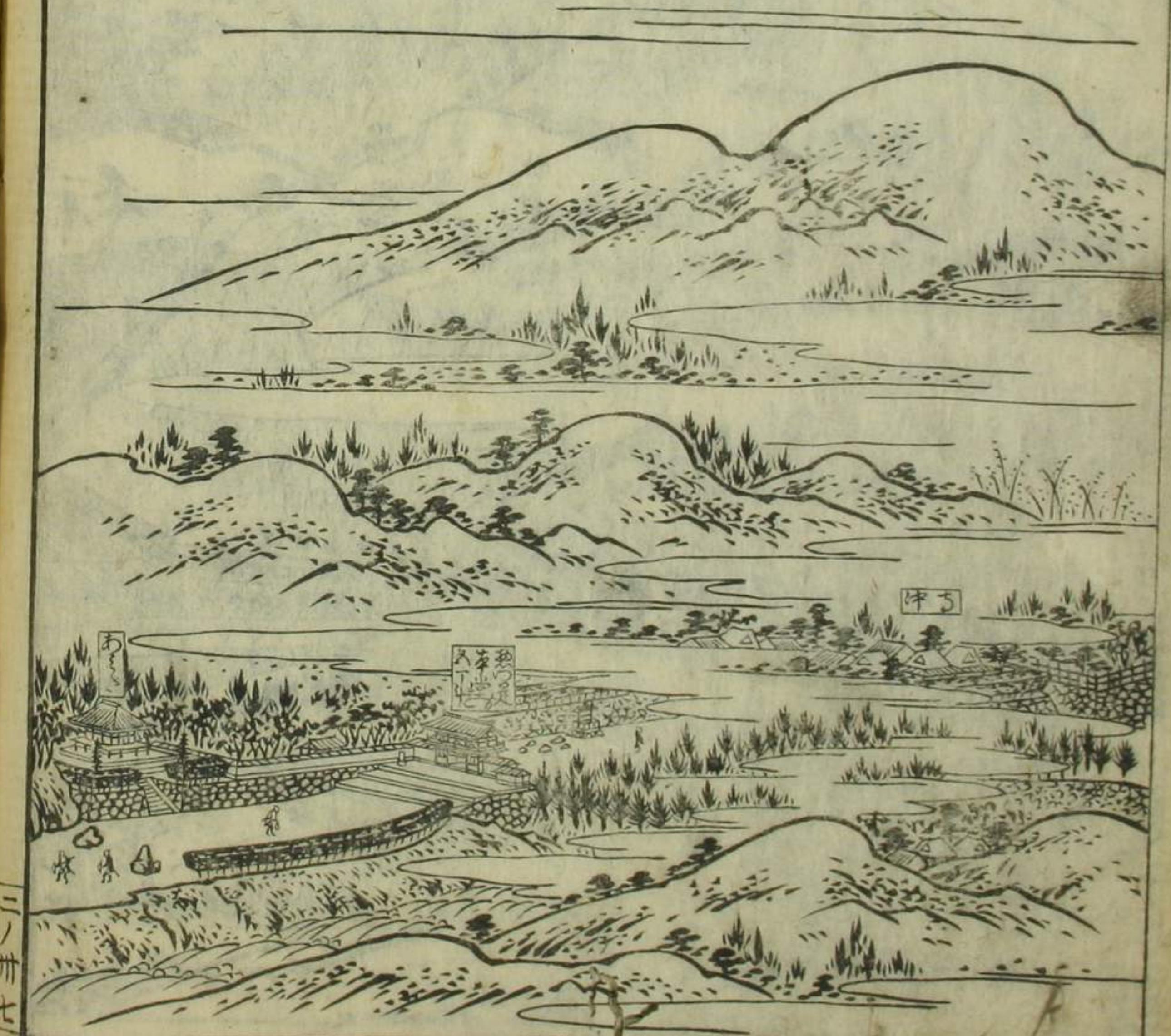
正愛炎天暮日頬  
飛牧擾々復如雷



菩薩提山



がいせん  
正暦ち  
惣門



崇道天皇陵

古市村小ありて天皇ハ極武帝の皇孫子也良親王と云  
國小ぶりに配附多くをかくとて坐ゆて嘗めに嘗て  
多く祀する事無く勅使が後詔國へき親王の骨がむくと  
和國に陵に取られねど水傍小りぐら

じ島寺

今さううへ延唐入の小造宮ありて勅使がくらひ圓々の輪が別ち  
藤原 村の名へは清郷小ありハ妻御お云諸樂宮へ爰居小ありと云

帶解比藏 俗小常解ちと

奉尊は比藏菩薩を目的化ひて文德帝の后深殿皇后御懐胎  
あくまで二月御誕生すしては比藏院のあ道小佛なり天下の靈  
佛靈社小寺幣を立られ御精わくと其驗さるにか一寳小喜日御作后的  
御着小笠をかへ和別添上郡に裙革の形を廊下に也藏るわう是と念せば  
其縫を道とて安らを告るをやづけりが奏聞わりて帝歎感  
あくまで名の勅使と立て御折立ありて小祇かく皇子御誕生わり  
是則惟仁親王と傳ひす後清和天皇とやせばそくより伽藍を建立

わりく平産布歡のまぐれと號を解すと號を賜て居人名をかづけ

の小里々今市と號を名づけある

和爾下神社二坐 桂田村と櫟井村と小あり御道天皇と称ば

龍腹寺 神殿村

奇異雜談集

しのぞみの小國がまよて應ひ往來あらむそまの種がちるの秋の  
實がまよて小わびて雨の御法事ハ縁を修めれども人形とせが  
一の縁どりと人をせりて老翁口ひくら拂り縫師おひくい龍女  
成佛の丈心肝小娘ド龍宮城とど成佛土に召ひとがほけ報せられ  
雨がまよて坐ゆとやとされどつれ小龍と大龍王のゆうと年を廢ぞ  
してまよて余が害をあくよし菩提よりうん念の病う  
もやもと牽りとひては余が捨て雨がぬとせん菩提の縫師よ  
はうせきとひじとをねにまくとら翁の虚室とぞかくれけ風暴に  
まかれて雨東軸のゆく泉舟艤とくに角す人氏の轍魚乃ニ

升の水が求め簾をひいてはまく初めあらひわり雨晴を待とあうべ  
ふの石がまよてけりと夥をう縛りあるやうとくね龍と川ア  
うれどもあらゆるこゝへゆば菩提提にとく龍頭寺龍尾寺龍腹  
寺とくとく寺がまよてひく今の龍腹寺其一つと云

虚空藏寺

清澄在虚空藏村の本尊虚空藏菩薩弘法院不動院奥院而佛の  
東寺宇家書

虚空藏弘法大師求聞持法勒終の時明星院供奉にとく都峯洞  
山涌出で靈驗揚焉とく小御堂原く信がとく精舍が造立貢司大師  
自本公別み虚空藏の像が造り銘額を以て居居うち什寶と  
のと實あ真雅直然真紀考相續と位職は寔小考師宝正一  
真雅の像が清くしまる管領の間みゆくと像に爲と爲と小天の  
像が別て安奉す永代門跡相承のますとすと

清澄池

高祖村小野其水清くと  
井門有

あらかじめもとれりと御の氣を引くと清澄の池神龜井中

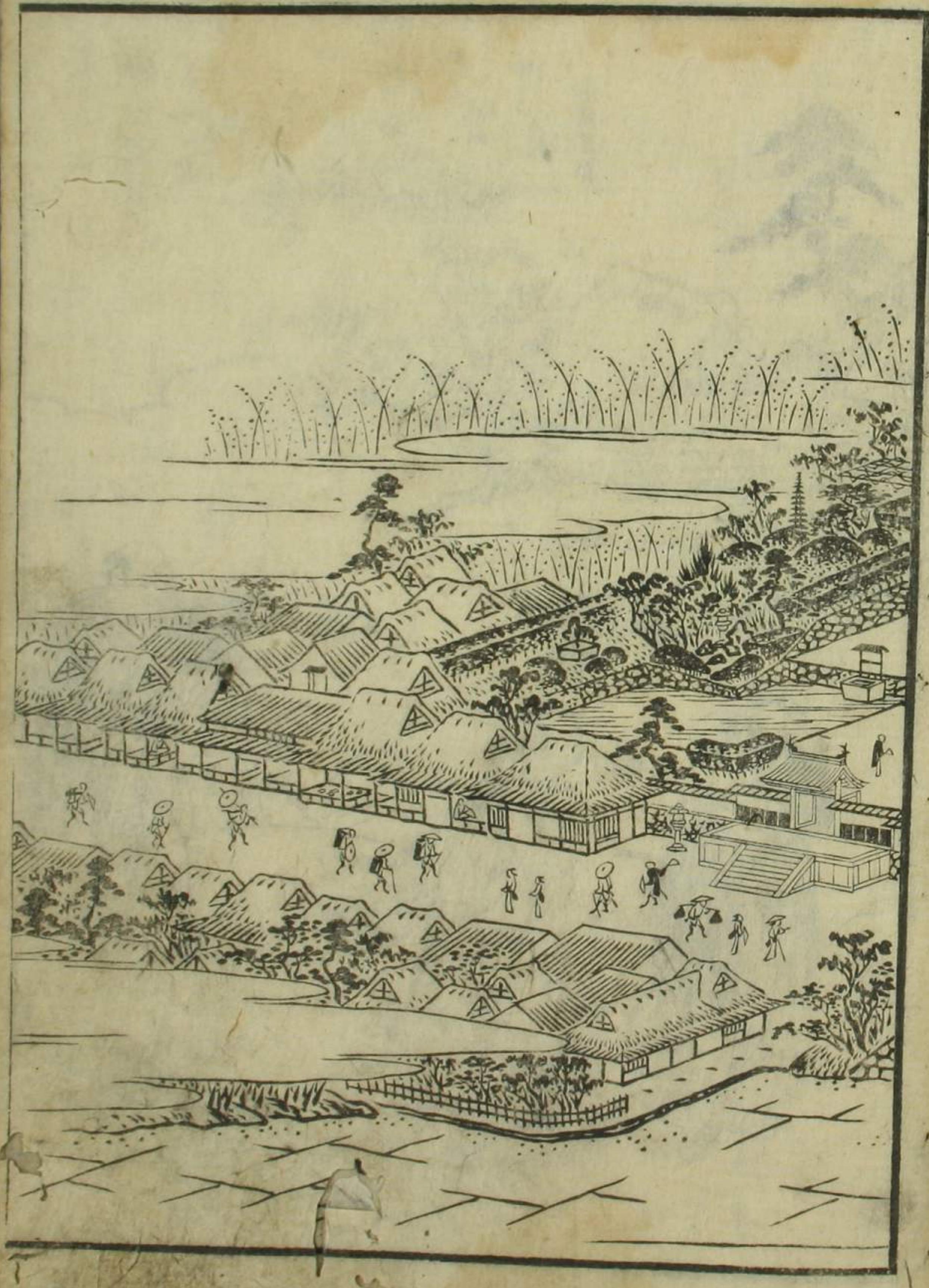
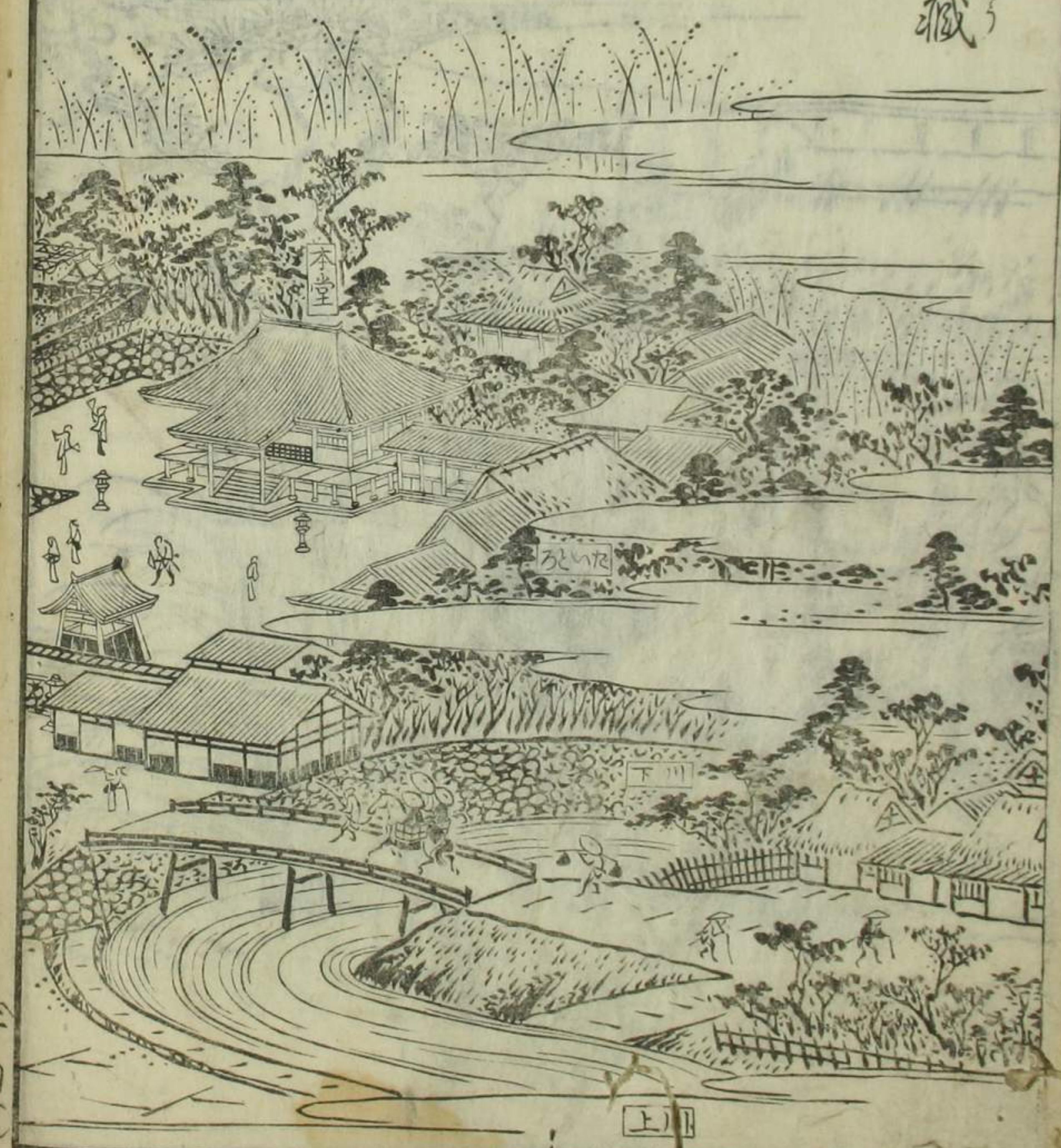
其角  
雨乃  
山駒の  
本猪  
取



二十九

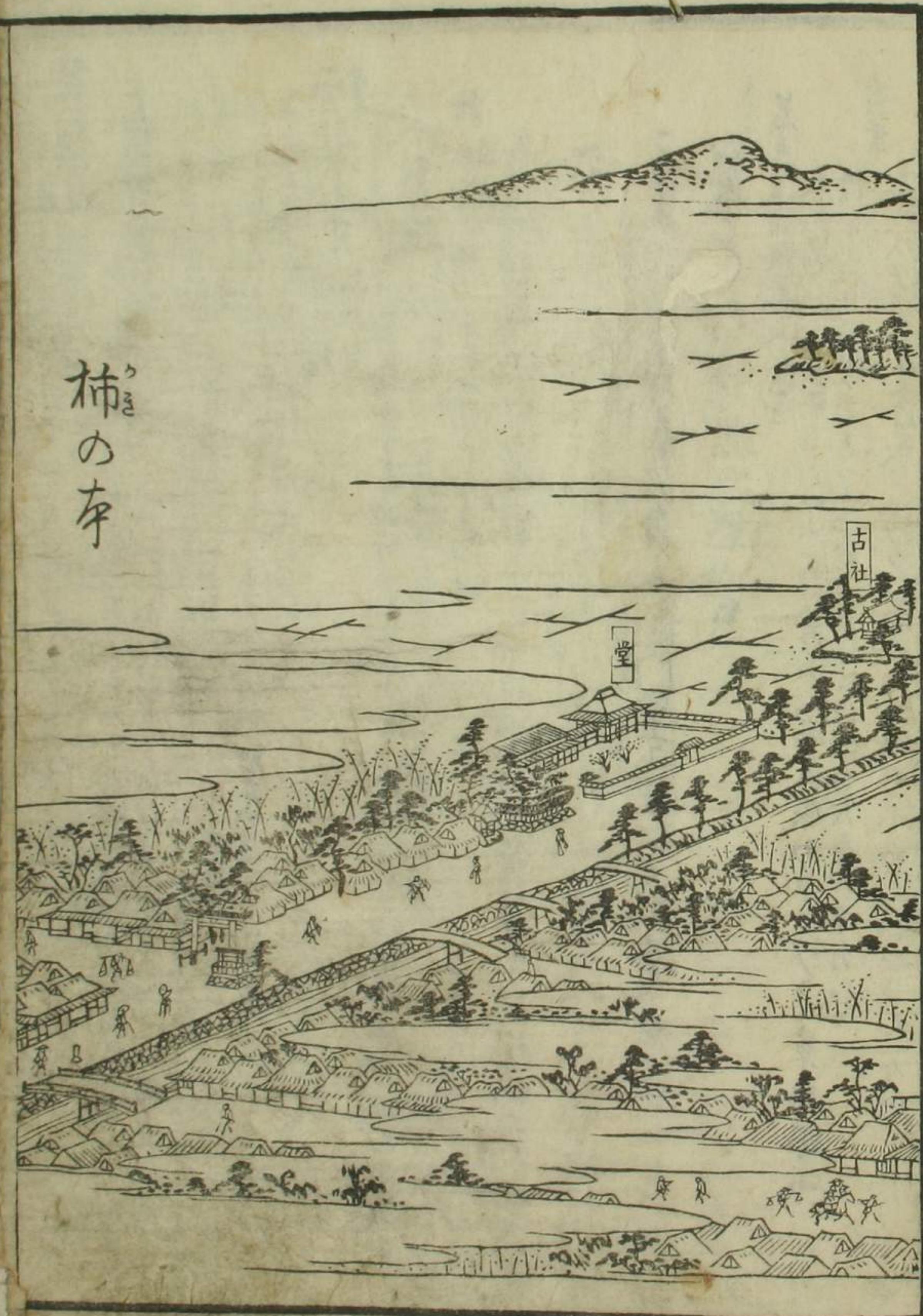


帶解地藏

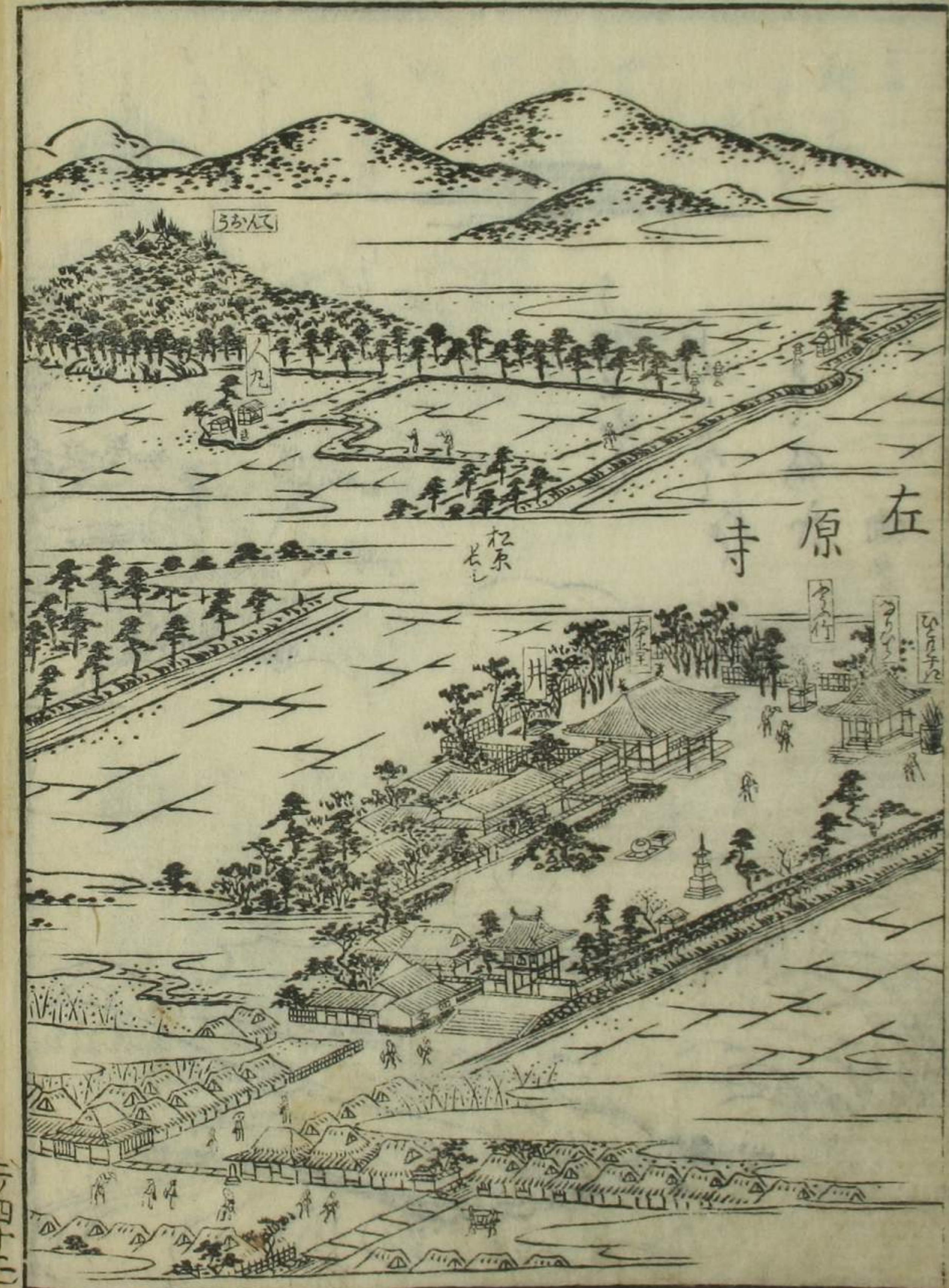




柿の本



二ノ四十二



菩提山正曆寺

奈良縣一里半北山裏椿尾村の西小あり

左道薬師佛

龍樹院と号す。寺中四十二坊あり。樹菩薩の化せり。後僧正正曆と年中に勅給。法然上人の才子蓮光法師うる。建保の後信圓大僧正再興あり。後中興圓と称す。大僧正の月臨定兼實のゆゑに實永六年炎上の時如来の像火もそとふへれせり。弘治再建わりと當ち回記に及べり。

柳本寺

柳本村

小あり

人丸塚

當寺ふわり石碑あり。歌家と書ひ。銘ハ天王山佛國寺百拙和尚撰。柳本議式日。圭主三位藤原家隆卿撰。

青陽の暮れ花小無常の音。とびれたひ黄壤の林。病小別離の風。長く吹く大和國添上郡石上寺のやうり。治道の森。中一小の草堂が建。こ處小林本が葬。身を龍門の土ふ埋むと。ともか葉は風。闕乃寶とうりて可悲可懲云。

爰原清浦朝詔家集云。

大和國石上林本とて。あはれあはれ。人磨の塚。とて。草部婆小。

玉葉

柳本議式日。圭主三位藤原家隆卿撰。

人丸の墓。傍ら歌塚と號してある云々。

其後村のものとあさきあやしむ。蓋ふうんなり。うか云々。

鴨長明無名抄曰。

人の墓。大和國小あり。初頃。ある道あり。人丸塚と。いふ。あはれ。人

かは。所。歌塚と號してある云々。

玉葉

人丸の墓。傍ら歌塚と號してある云々。

ゆく。跡が苔の下。そぞろのもの。うしゆめのりと。方ナリ。寂蓮法師

殷富門院。浦人丸塚。佛の御。人。秋森の。お。を。行。くる。

或記云。文明の初。速秋。僧宗長。この跡。

権。と。あ。た。小。と。と。の。牢。田。う。か。

吉野諸日記云。逍遙院西二条。正大二年二月廿六日。紹巴の案内。よ

け。所。に。ゆ。く。お。じ。く。

ク。人。持。た。る。云。祭。と。多。き。に。や。た。の。や。り。と。と。り。持。に。沙。る。と。ゆ。く。

猶葉和詩集云。

や。の。り。れ。や。う。ら。ま。の。を。ね。の。を。う。く。人。も。と。み。け。な。く。

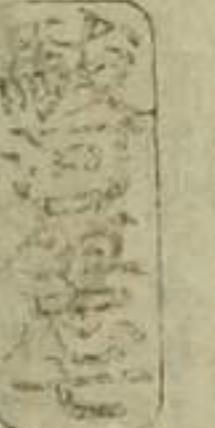
よ。の。ひ。さ。く。ひ。ま。と。か。ト。の。名。を。と。み。小。と。埋。ま。う。り。を。お。置。信。範。

大日本史曰

顯昭法師人丸勘文云藤原清輔後二條帝御代人嘗過大和聞故老言添郡石上寺傍有祠号治道社祠邊寺號柳本寺是人麻呂所建也祠前小塚名人麻呂墓清輔往觀之所謂柳本寺礎石僅存人麻呂墓高四尺許因建率都婆勒曰柳本朝臣人麻呂墓顯昭按人麻呂沒于石見豈移其遺骸於大和耶如平惟仲卒于宰府移其屍于洛東白河



大和名所圖會卷之二終



土野北門町繪四番地  
伊勢屋  
岡新兵衛

